

伊東沖噴火体験者に聞く

やっぱり、日ごろの準備がものをいいました。

群発地震に続いて、海底噴火という予想もしない事態となった伊東市に、群発地震の沈静化を待っておじやまし、突然の事態に自主防災会がどのように対応したか、尋ねてまいりました。その結果は、実に学ぶべき点が多く、私たちは東海地震に備えて①家庭防災対策をもう一度見直す必要がある②適切な情報伝達のために、官民ともに一層の努力をすべきなどを痛感しました。

●家庭防災対策をもう一度

「突き上げるような一撃を感じ、じっかり」と!



と、気がついたらそばの柱にしがみついていた!

「地震の直前に聞こえる地鳴りも、地中に吸いこまれるような、それまでに経験をしたことのないものでした。」

少々の揺れには慣れているはずの市民も、あの時は、いつもと様子が違うことを肌で感じていたようでした。

群発地震に加えて海底噴火というおまけまでついて、一時は市民を恐怖のどん底に陥れましたが、家の中の被害は、民家の壊れた瓦屋根を覆う青いシートの数から受ける印象でした。実際にやけどなどで多少のケガ人は出たものの、火災の発生はゼロ、死亡・重傷者もゼロ、十数日に及ぶ緊迫した事態の中で、まさに優生的結果でした。

今回の取材で印象に残ったこととして、関東大震災を経験した市民の教訓が活かされていたということがあります。つまり、①食事の支度など火を使うものは、すべて朝一回にまとめて支度をしてしまう。そしてガスの元栓は終日閉めておく。②ドアは開放し、庭の物干し類は隅に片つけておく。懐中電灯は一人一本持つーなど、大いに感心させられました。

しかし、家庭対策をしていなかったところでは散々でした。扉のない木棚からは押し出されたように本が落下、洋服ダンスや書庫の扉はいびつになって締

まらなくなり、日頃はなかなか外れない電灯の傘が落ち、戸棚からまた天袋からすべてのものが飛び出し、大型冷蔵庫が1メートルも移動したそうです。震度5で以上の通りでした。私たちは家具災害の犠牲者に



ならないために、また大震災を人災にしないために、家具の転倒防止対策は必ず行わなければならないと痛感しました。

●自主防と市対策本部の連携

群発地震・噴火活動と続く一連の事態に、住民の安全を確保したり不安をとり除くため、伊東市災害対策本部と自主防災会

はどのような行動をとったかを聞き取りました。テレビなどで知る限り、市の災害対策本部は情報不足で、後追い情報は流せてもこれからの見通しを語るには何の情報もない、というのが現実だったように思われます。私たちが取材した宇佐美地

区の大高区長は「地域の実状に即した動きをすることが住民の安全確保に大切なこと」とし、「市よりの情報を待たず、土地の古きよりの情報を参考に、独自の判断で住民の自主避難を決めた」とのことでした。

それを混乱もなくできたのはしばしばの地震で、どう対応するかを住民がよく知っていたことと、また、組織の動きがよく機能したことなどが挙げられるでしょう。

しかし、市内の寺院や公共施設に自主的に避難したが、そこが指定の避難所ではなかったところもあって、「個人的判断によるこのような行動は問題」という指摘もあります。今回の群発地震・海底火山噴火を、私たちは防災意識を高めるための警鐘と受けとめています。これを機に自主防はより防災意識を高めていく工夫をすべきでしょう。また市町村の防災担当者には、それぞれの防災計画を住民に一層徹底させるようお願いしたいと思えます。

●情報災害は繰り返さない! 今回もまた、情報による混

乱が起きました。昭和五十二年の伊豆大島近海地震のときも、県が発表した「余震情報についての連絡」が、伝えられる途中で内容に歪みを生じて一部に混乱が起きました。今回のも、ややこれに近いような感じでした。

混乱状態の中にある一般住民に情報を伝える場合、内容を十分に吟味する必要があります。その情報を各自が聞いて自分流に解釈して行動を起こしてしまうと、それこそ收拾のつかないものになってしまいます。

今回も「火山の活動により津波の……」との放送で、海岸沿いに住む住民に混乱が生じたといわれています。よく聞くと、放送されたそのものは単なる注意の喚起だったのですが、同報無線の欠点であるエコーが作用して、今すぐ津

先頃の伊東市東方沖の群発地震では、ガス漏れ(七カ所)、停電(二地区)、電話故障(九件)、水道漏れ(四十三カ所)などの被害を受け、短時間で復旧しましたが、大勢の市民はライフラインの大切さを感じております。

一人ひとりの意識が守ります

ライフライン

東海地震の警戒宣言が発令されても、電気、水道、ガスは使えますが、できる限り使用を控えたいものです。都市ガスは、使用する上で影響がない程度に減圧することになっています。電話については家庭用電話は、

波がくるかのように受けとられたことでした。市民に情報を伝える手段として、同報無線・広報車、また自主防災会を通じて流すものがあります。同報無線は一度に広範囲をカバーできることから、全体的に中心的な役割を担っています。

伊東市ではこの混乱を重視して、早急に個別受信機の増設を発表しましたが、新しい人災情報災害を起さないための方法を急いで考えていかなければならないと思えます。静岡県自主防災組織活動推進委員会

各地からの問い合わせが殺到して、通じなくなる恐れもありますので、やむを得ない場合を除き使用しないことです。青緑、黄色の公衆電話は警戒宣言時でも使用できます。東海地震が発生すると、ほとんどの地域で電気、ガス、水道、

電話が止まり、使用できなくなることが予想されます。普段から飲料水や燃料等の準備、緊急連絡方法の話し合いなどをしておくことが大切です。静岡県地震対策課

「わが家はだいたいじょうぶ」 の気持ちしが危険です。

私たちの裾野市は、東側と西側を山に挟まれ、南北の標高差が約三〇〇メートルほどの富士山麓台流の上に乗った細長い街です。

昭和五十五年の防災指導員会の発足と同時に、「わが家の耐震診断」を防災対策の重要項目に取りあげ、あらゆる機会をとらえて木造家屋の診断を呼びかけてきました。そして、二十五人の指導員を耐震診断に応じられるよう養成しました。



上で地震がよい」「建築確認申請を行っているから、地震がきても大丈夫だ」「他人の家をのぞき見するな」「そんな難しいことは分からない」など、耐震診断はまったく進みませんでした。防災訓練だけは、五十九年ごろまでは補助金を貰って機器が整備されていきましたから、各防災会共に熱心に行われていました。それも徐々にマンネリ化し、意欲も減退気味に推移していったようでした。

ところが昭和六十一年の伊豆大島の噴火で、町の人たちの災害に対する意識が蘇りました。

そして、翌年度から、何が何でも地震対策を。地震の知識を植え付けよう。と、連合会でも意見がまとまり、「わが家の耐震診断」を重点対策として行うことが方向づけられました。

耐震診断までの手順はまず、五地域の交流会（自主防衛五人以上出席）で説明会を開催、さらに説明会を求める自主防災会に赴いて、診断の説明会を開きます。すると、これを受講した人たちが中心になって診断を行い、それができない防災会は、指導員が地域に行き、各自に家の図面を持参してもらい診断を行います。こうして、どうやらことしの九月までに市内の木造家屋の診断をほぼ終えることができました。

多くの機会にも恵まれ、大変有意義だったと思えます。これによって、地域の防災対策の基礎が一つ固まりました。しかし、これから大変、わが家の防災対策をそれぞれが進め、さらにこれを基礎に自主防災会を充実するという大仕事が続いていきます。

推進委員 杉山 好

今・から・でも・遅・く・な・い・家・庭・防・災

SOSベルなんて、いかがでしょう。

今回の伊東沖の群発地震と海底噴火で、海岸に面した一部の地域の住民は、近くの寺院や公

朝の会で、「今日は、ひなんくんれんがあります。」「少しおさまりました。静かに、外へ出しましょう。」

「よしんです、よしんです。」先生は、こわい顔をして、つく

こまったひなんくんれん

裾野市立西小学校三年

加藤 るみ

という、ほうそうがあった。わたしは、大いそぎで、つくえの下にもぐろうとした。でも、つくえが小さくて、なかなかもぐれなくて、よこの方からや」ともぐりこんだ。つくえの足をし

「六年生、五年生、静かに、行動して下さい。」



昭和六十三年度に県地震対策課が行った東海地震についての県民意識調査は、家具類の固定状況についての質問に対して

「固定していない」と答えた家庭が五八・六〇と過半数を占め、「大部分固定している」は五・〇％と非常に低い数値を示していました。

倒れてくるので、家の中はもうメチヤクメチヤ。ついには位牌まで仏壇から飛び出す始末。息子は「生きた心地がしませんでした。」これは五十九年九月に長野県西部を襲った地震のあと、木曾郡上滝村に住む七十七歳のおばあさんが語った恐怖の体験です。

家具の固定は、自分の命を守るために最低限やっておかなければならない大変重要な対策の一つであること、再確認すべきだと思います。

推進委員 大石勇輝

消火 大石勇輝

とにホッとしましたが、ふと、大きな災害の時に寝たきりの方とか身体の不自由な方の避難はスムーズに行われるだろうかというのが心配になりました。

「四年生、三年生……。」と言ったので、ろう下へ出て行った。出たとたん私は、どの教し

「あんな、加藤君の妹じゃないの。いっしょに行こう。」と、六年生のお姉さんが言ってきたのは、とっとして、や」と自分のへやがわかった。

あわてると、つくえにすぐはいれなかつたし、ろう下に出たとたん、一方通行だなんて、い

東海地震の警報が突然出た場合

「東海地震の警報が突然出た場合でも同じことだと思います。気が動転して、自分のこと家族のことだけを優先させ、自力で行動できない人が近々いて、こ

とまで気が回らず、災害弱者が取り残される結果になる心配があります。

十二月の地域防災訓練日には県内各地で中高生参加の訓練が行われますが、ここで弱者対策のいい答えができることを期待します。

推進委員長 徳田権作



「今日、ひなんくんれんがあります。」「少しおさまりました。静かに、外へ出しましょう。」

「よしんです、よしんです。」先生は、こわい顔をして、つく

「あんな、加藤君の妹じゃないの。いっしょに行こう。」と、六年生のお姉さんが言ってきたのは、とっとして、や」と自分のへやがわかった。

あわてると、つくえにすぐはいれなかつたし、ろう下に出たとたん、一方通行だなんて、い

「六年生、五年生、静かに、行動して下さい。」

急救

倒れている人を見たら まず声をかけて

人が倒れているなら、まず意識があるか、ないか確かめてみましょう。それには、軽く肩をたたきながら、「もしもし、どうがなさいましたか」と、声をかけてみましょう。大きな声で呼んでみたり、体を強く揺すったりしてはいけません。

意識がはつきりしていない時は、頭のケガや、脳卒中などが

疑われます。

意識のない人は、あごや首、舌等の力が抜けて、舌の根もどがのど奥へ落ち込むことがあります。のどが完全にふさがってしまおうと窒息します。ふさがりかけているときは、呼吸が苦しそうにゼーゼー、ガーガー、ゴーパー等の音がすることがあります。そんなときには、気道

自主防災にも若い力を

九月二日の静岡県総合防災訓練は、県内中学・高校百四十三校から六万五千人の生徒が参加、

何も教えてもらわないままで訓練が終わったのでは、彼らの期待は裏切られて、再び訓練に参加する意欲がなくなるかも、

九月二日の静岡県総合防災訓練は、県内中学・高校百四十三校から六万五千人の生徒が参加、

何も教えてもらわないままで訓練が終わったのでは、彼らの期待は裏切られて、再び訓練に参加する意欲がなくなるかも、

の確保を行います。
「気道とは、口、鼻からのどを通り、気管、気管支を経て肺までの、空気の通り道のことです。空気が肺までスムーズに通るよう



うにして、呼吸が楽にできるようになることを気道の確保とい

ます。

その方法
①、頭をうしろにまげ、下あ

みなさんの自主防災活動を広く紙面に紹介するために、今、私たちの自主防自慢の原稿を募集しています。写真も原稿に添えてお送りください。

あなたの町の、自主防自慢、教えて下さい

みなさんの自主防災活動を広く紙面に紹介するために、今、私たちの自主防自慢の原稿を募集しています。写真も原稿に添えてお送りください。

原稿に住所・氏名・所属自主防自慢会名・職業・年齢・電話番号を明記し、採用には粗品進呈を明記し、採用には粗品進呈

「を前に突き出した形にする。枕をしないで平らに寝かせ、一方の手を患者の顔に、他方の手を下あごの先にあて、下あごを押し上げるようにして、頭を後ろに傾ける。

首にケガをしていると思われる時は、次の方法で行います。
②、下あごを引き上げる。親指を口の中に入れて下あごをつかんで前の方に引き上げる。または両手で下あごの角に指をかけて前の方に押し出す。

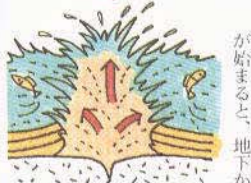
意識のない人は物を飲み込むことができないので、飲物や食べ物を入れないで、のどに詰

まっつてしまいます。また、胃の中の物を吐いた時、口の外まで出すことができず窒息するこもありますので、吐き気のある場合は横向きにしておきます。

マグマ

水蒸気爆発

さる七月十三日伊東市石島の大約二㎢の地点で起きた海底噴火は、深さ約一〇〇mの海底で起こったにもかかわらず、海



海底近くまで上昇してきたマグマが、浸透してきた海水と接触し、マグマ水蒸気爆発を起した。

地震 一口メモ

地震発生 空白域

地震活動が見られる地帯の中に、中小地震が発生しない地域が存在することがあり、これを地震の「空白域」と呼びます。

の根室半島沖地震(M7.4)。昭和五十三年の宮城県沖地震など多くの例があります。

中・高生の訓練参加体験記をお寄せ下さい!

中・高校生の皆さん、十二月の第一日曜日(三日)は、地域防災訓練の日です。ぜひ訓練に参加して、ご意見、体験の記録をお寄せください。

「自主防自慢」や「家庭でも、いっしょに参加するようにすすめて、体験記を応募するよう話してください。

◆応募方法 四百字詰原稿用紙

編集後記

群発地震に続く海底火山の噴火という異常な事態に、伊東市民は、そして自主防災会などのように対応したかを取材し、本号にそのレポートを記載いたしました。

沈静化したとはいっても、海底噴火後、わずか四十日ほどしか経っていないところへお邪魔することは、申しわけないというひとことに尽きました。

つつお邪魔しました。しかし、伊東市の生活安全課の皆さま、また宇佐美地区の大高区長さんなど、どなたも快く取材に応じて下さい。大いに感謝いたします。

次号では、その訓練結果を皆さまにお知らせしたいと思っております。

各防災会の役員の方々は、十二

各防災会の役員の方々は、十二

各防災会の役員の方々は、十二

各防災会の役員の方々は、十二

自主防災

第 8 号

平成 2 年 (1990) 3 月 1 日

編集・発行 / 静岡県自主防災組織活動推進委員会

発行所 / 〒420 静岡市追手町 9-6

静岡県地震対策課内推進委員会事務局

☎0542-21-2456

不意の地震に日頃の用意



仮設住宅とボランティアたち (撮影・木村力也)



ボランティアの活躍で復旧作業が進む

"地震に打ち勝とう!"

("ビート"「打ち勝つ」はリズムの方
"ビート"の意をかねあわせているのか?)

地はうなり
また ゆれる
ものは 倒れ
ガラスは 割れる

打ち勝つために

次のことをやりましょう。

1. Prepare (*準備*の意
つまり家庭や職場の計画)
2. Protect (自分を"守れ")
3. Practice
(家庭や職場で"訓練"を)

もっと地震対策のことを知りたい方は、たたちに
都道府県や市役所の防災課あるいは赤十字へ
問い合わせ下さい。



(アメリカ・カリフォルニア州
の防災ポスター)



不便なテント生活を送る被災者たち

己れを守ろう! みんなで守ろう!

ロムプリータ地震(米・カリフォルニア州)と サンフランシスコ湾岸地域の防災

昨年十月七日に起こったロムプリータ(震源地近くの山の名称)地震の大きさはマグニチュード7.1で、昭和五十二年一月十四日に起こった伊豆大島近海地震(マグニチュード7.0)山崩れ等で二百人の命が奪われた)とはほぼ同じ大きさです。

もちろん震源近くでは、家が倒れ、山が崩れ、火災が起こり、道路が不通となり、また人命が失われました。しかし、九〇キロも離れたサンフランシスコ市でも、マリナ地区を中心に三〇棟の家が全壊し、オークランド市のサイプレスでは二階式の高速道路が壊れ、三九人が死亡という被害が発生しました。

九〇キロというと静岡と豊橋の間、あるいは静岡と藤沢間ほどの距離にありすぎます。これはどの距離があっても、軟弱地盤の建物などの揺れは大変大きなものになるということです。東海地震はマグニチュード8ですか、軟弱の程度がこれほどでない地震でも、やはり激しく震動することでしょう。

サンフランシスコ湾岸地域では、四月が防災月間です。一九〇六年四月に起こったサンフランシスコ地震にちなんで設けられました。この地域の連邦・州政府の機関や郡や市が共同して地震対策のキャンペーンを行ったり、訓練を行ったりしています。写真は昨年四月の防災月間のポスターで、言っていることは日本と同じようなことです。

カリフォルニア州は、地震の多いところで、世界の中でも地震防災対策の先進地です。地震防災教育も、州や郡市(アメリカでは郡政府)というものがあつたり、赤十字などが行っています。しかし、ご存知のとおり、アメリカは徹底した個人主義の社会ですから、日本の自主防災組織のようなものはほとんどなく、啓発や資料配布などをお手伝いするといわけにもいきません。

そのために関係資料の配布はボランティアとして協力してくれるスーパーの店頭においてもらって、読みたいと思うお客にとりつけてもらって、企業に協力してもらって、地震防災資料(小さい紙切れ)を依頼された各会社の郵便物に同封してもらって、電話帳の冒頭に、かなりページをさいて地震防災の記事をのせてもらう。などの方法をとっています。

このように市民の地震対策の知識が少しずつ浸透してきて、今回のロムプリータ地震の際にも役立ったのではないかと思います。何も知らないのでは、どうしてよいかわかりません。冷静に行動することができなくなつたら、被害はもっと大きくなつたのではないかと思います。

静岡県防災局長 杉山俊朗

できたてホヤホヤの婦人消防隊

島田市稲荷町自主防災会・岡元 康子

島田市稲荷町は大井川の左岸にあり、自主防災会の規模は、数約八〇〇、人口三三〇〇人で、四プロックで組織されています。この町内に、本年度から自主防災婦人が発足しました。婦人活動の重要性を考慮してのスタートでしたが、中でも婦人消防隊の誕生をみたことは、とりわけ大きな出来事です。自主防災婦人部をつくる話を町内から受けた時、私は最初、「えらい事になった」と考え込んでしまいました。しかし婦人

リヤカーを改造して、これで避難させるなど、婦人のできる範囲の訓練を始めたところですが、九月一日の防災の日には、婦人部としての役割を各班とも無事に果たしました。できたてのホヤホヤの婦人消防隊員も、日頃の訓練の成果をこころざしに発揮、可搬ポンプも上手に扱おうとがんばりました。燃え上がる火に向かって規律正しい消火を行い、無事に訓練を終えた時の充実感も最高でした。現在は、小さなスペースでもよい、「婦人部使用」などを防災メモ風にして皆さんにお知らせしたいなど、いろいろ考えています。防災訓練の終わった今が新たな出発だと思おうと同時に、責任をすっしりと肩に感じています。



起震車に乗りました

裾野市立向田小五年 遠藤 彩子

十一月二十六日(日)に、みね下の公民館に起震車が来ました。私は放送で聞いてすぐに行ってみました。はじめて乗るのでも、こわいような、ゆうえんちの乗り物みたいにも楽しかった。とても楽しみにしていました。くつをぬぎ、スリッパにはきかえて部屋の中へはいりました。中には電話や、机やいすなど、ほかにも台所などがあり、木当の家の中みたくでした。震度が高くなる、ころがってしまおうので、手すりなどもありました。大きな地震がくると家の中はど

わがまちの家庭防災

防災リーダー養成講座に参加して

富士市岳陽中二年 三品 智義

伊豆東方沖の地震から、ぼくは地震防災についてたいへん身近に感じ、関心をもってこの講座に参加しました。まず自主防災推進員の高野先生から、地震などの大規模な災害が発生した時、方が一両親の留守の時、父や母に代わって家や地域を守る者として期待されているという話がありました。実際には、大人がいればいけれども、いつもいる時に起こるとは限りません。そんなときは、

実技指導で身につけた消火器や可搬式ポンプなどを使って、進んで消火などをしてほしいと思います。静岡県地震防災センターを見学して、とくに印象的だったの

地区の住民一人ひとりを知る

清水市西久保五区自主防災会・石井 博

私は清水市西久保防災会(会長・沢野毅)は六つの自主防災会で構成されており、そのうち第六防災会は昨年、優良防災会として表彰を受けています。当地区の防災訓練は、一昨年から地区全体として、袖師中学校への避難訓練を主体に行っていました。昭和六十三年度には、各自防上に行いました。こうした方向に進んだことは、昨年九月十日の間の日曜日

か、ということを感じました。この日の体験を生かして、少しでも地域や学校のために、何か一つでも役立つことができたらと思います。か、下部組織以外にないと考えるからです。そのほか、消火器の使用による初期消火、三角布の使用、毛布による簡易タンカの使用など、多くの人が実技で



総合訓練は、ともすると見るだけの訓練になりがちで、実際に必要な体験はごく一部に限られます。私たちの地区でこの数年間に三回の火災が発生していますが、二部を除き初期消火で

急にとゆれだしたのでとてもびっくりしました。震度4というところにランブがついていました。このくらい地震なら、私も体験したことがありません。まだじゅうぶん立っていられます。少したったら、足がふらふらとしました。震度5になつては、このくらいに気がきました。まだ立っていられますが、足元がゆらゆらして、時々ころびそうになります。なんとゆれがはげしくなってきたのが震度6です。さすがうごいて、電話の受話器が、机の上のところから落ちてしまいました。震度6になるともう立っていられません。手すりにつかまらなれど、体がぐらぐらしてころんでしまいます。起震車で一番震度が高い震度7では、部屋がギシギシと音をたてました。前よりもずっとながらうです。本当だったら、もう家はこわれていくでしょう。震度7になると、机もついでに落ちてしまいます。学校でのひなん訓練では、机の下にもぐったりするけれど、もうこの時には机の下にもぐるのもやっとならうし、机がうごくのでとてもこわいと思います。やっとならう、ゆれがおさまりました。なんだかとてもほっとしました。けれどとても楽しかったです。

そのほか、防災会として消火器、非常食用電話のあつせんを行つたなど、地区の人に役立つ防災会にすることに努力しています。



わいでいられないと思います。みんなにげるのに必死だと思えます。私が思うに、だいたい家がこわれはじめるとは震度5、全体がこわれだと思えるのは震度6、7くらいだと思います。そのため地震にそなえて、ひなん訓練もふざけず、地震のおそろしさを知り、いつでもひなんできるようにしたいです。

十 二月三日の日曜日に行われた「防災訓練」に地域の友達と一緒に中学生も多数参加しました。僕も地域の活動に中学生の一人として協力するた

地域防災訓練と中学生の参加

沼津市立第五中三年 金子大介

九月一日の「防災訓練」に次いで二度目の訓練でした。日ごろ、地域活動への参加が少ない中学生にとって、今度の訓練への多くの中学生の参加の意義はとて大きいと思

十 二月三日に地域防災訓練が行われたので、友達と一緒に参加しました。まず初めに、訓練についての説明があり、地震、火災の諸注意について、話をうけました。その話の中で、地震が起きた時は家族で役割を決めておくと、茶早く行動ができるかと、非常食の点検、正確な情報をうけて行動するなど、とても大切な話を

放水や炊事などの作業もとても早く、感心するばかりでした。つい最近、サンフランシスコで大地震が起きて、火災や破壊が大規模に起こりましたが、その中に地域の人々が自分たちの

地域を一生懸命救おうと、消火や救出などの活動を行っている場面をテレビで見ました。そこで僕は、今も、この静岡県で大地震が起き、自分達の地域が火災と破壊で大パニックになった時、はたして今の地域の

中高生の訓練体験記

その後、バケツリレーや放水、消火作業、消火器を使った消火作業に移りました。バケツリレーでは二列になって、水の入ったバケツと入っていないバケツが、てきばきと運ばれました。

地域防災訓練に参加して

浜松市立富塚中三年 青嶋 佳子

放水作業では水の勢いに驚きました。風にあおられて雨のよう

さずに、救出や消火ができるだろうか、もし火災現場を目の前にして、その場所に中学生だけがいたらしたら、消火活動ができるだろうかと思うと、今の訓練状態ではまだ不十分どころがたくさんあります。しかしこれまでの二度の防災訓練を通して、中学生や地域の人々の防災意識も高まり、少しずつ中学生と地域の人達との協力の輪が育ちつつあるようにも思いました。僕は自分の地域の防災に少しずつ自信がついてきました。このような防災訓練に、自分

わが家の耐震診断



日本近海の周辺で発生した大地震の平均的周期は二七七年とされています。予想される東海地震は、前回の安政東海地震からすでに一三五年経過して警戒時期に入っているわけです。また、東海地震の誘発の懸念があるかもしれないという、静岡中部地震や小田原地震も心配されています。

あなたのお家の耐震診断は済みましたか？ 同じような条件の地域内に住んでいても、耐震診断の結果によって、防災対策もそれなりに変わってきます。例えば、結果が良ければ警戒宣言が出されても、家の中の

はおそろしいなと思いました。続いて行われた、消火器による消火作業では、石油などに火をつけて消火器で調子が悪かったです。途中で粉だけが出てしまい、すぐおわってしまいました。これが訓練だったからよかったものの、本当の火災だったら大変だということ、ここで

推進委員からのレポート

その家に一時避難をさせてもらい大揺れによる種々の災難を防ぐこともできます。また、やっとな無事に連れて帰ったのに園児や児童を家に入れて、家の倒壊によって起こる悲惨な災難も、耐震家屋によってのがれることができます。

ロケット型地震では、地震の悪い場所が集中していました。宮城県沖地震では、埋め立てや傾斜する宅造地に木造家屋の被害が集中しています。東海地震の揺れはこれらの地震よりはるかに大きいと思

わが家の耐震診断を基本にして防災計画を立て、地震に備えましょう。

出火防止と初期消火

地震火災の恐ろしさは、同時に多発した火災が炎上拡大して延焼すること、初期消火活動や消防隊による消火活動が、地震によって妨害されることが、これを未然に防止するには、

中・高生の皆さん、地域防災訓練への参加体験記をお寄せくださいまして、ありがとうございます。審査の結果、次の五名の方が入選となりました。

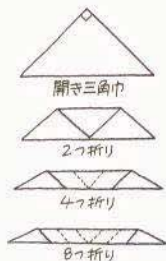
落物に よる被害
日本の木造住宅は、地震にはわりあい強いといわれています。

静岡県自主防災組織活動 推進委員会

- 一、書棚、ロッカー、机などはすべりだしたり、倒れたりする。
- 二、家具の上に置いてあるものは、すべて下に落ちる。
- 三、はめこぼし窓、開閉できない窓のガラスは、割れやすい。
- 四、窓ガラスは、すべりだした家具があたって割れる。
- 五、家具のガラスには、中のものがすべりだしてあたり、割れる。

急置 包帯には 三角巾が便利

包帯は、キズにあてた保護がキズを押しやる時、肘折の際に添える副手を固定する時、手や腕を出る時などに使われます。



包帯の種類は、巻幅帯とい... 巻幅帯の場合、包帯する場所... 三角巾は、正方形の布を対角線にそって二枚に切ったもので... 五角形の一辺の長さは10... 5センチくらいのもので... 三角巾で包帯する時は、腕や肘・膝の関節には四つ折りで、頬・耳・口・額などには八つ折りでというように適切な幅にた...



地震の液状化現象

地震の液状化は、一般に細かい砂質土質で、地下水位の高い所に発生しやすい現象です。地震で地盤が揺らされると、砂の粒子のすき間に入っている...

結ぶ時には、結び目がキズの上にならないように、またまた地盤の液状化は、一般に細かい砂質土質で、地下水位の高い所に発生しやすい現象です。

推進員 永野 純子

お待ちして おります：地震 防災センター

「地震の時に火は出さない」「出ても大丈夫な小きなうちに消す」という鉄則があります。六十六年前に起きた関東大震災では、十四万人の人が亡くなり、死者の大半は、地震の揺れそのものよりも、地震で生じた火災によって亡くなったとされています。

しかし、たった二分ほどの地震で十四万人の人が亡くなるなんて、とても恐ろしいことだと思いませんか？東海地震が起きた時、このような大被害を二度と繰り返してはならない。

高めていただくことと、昨年十一月二十九日に記念大会を開き、二十一の団体、五名の会長さん（敬称略）に知事賞を贈り、また「防災劇」を催しました。

「防災劇」下田市・大坂区 自主防災会、熱海市・中野町防 災会、沼津市・原新田自主防 災会、富士宮市・福地区防 災会、清水市・二の丸町自主防 災会、

多角的に展開されました。自主防災会のこうした発展の裏には、熱心な会長さんをはじめとする役員の方々のご努力がありました。地域を守り被害を減らすために、

静岡県地震対策課

と繰り返し渡さないために、県民の皆さん一人ひとりに「地震の恐ろしさ」「日頃から備えの大切さ」を知っていただくなくてはなりません。そのために地震防災センターは開設されました。

センターでは、昨年の四月三十日にオープンして以来、八か月前に四万七〇〇〇人余の方々にご来館いただきました。これは私たちの年間予想の三万人をはるかに超えた結果です。職員一同この結果を喜ぶと同時に、役割の重大さを見直してまいります。

八か月前の利用状況は、幼稚園のグループから、一〇歳で杖をつきながらこまめくたさったおじいちゃままで、若者男女さまざまです。老人会、婦人会、町内会、子供会などのグループで来館されたり、夏休みには小学生が、七月の伊豆東方沖の群発地震の研究に利用したり、企業の方は防災講座をホールで開くなど、いろいろにご利用法でお使いいただきました。県外からも、遠くは外国からも

昨年十一月三日は地域防災訓練の日でした。訓練の日には、次の時代の担い手である中・高校生への参加を強く求めています。この日、作品も次回以降に掲載を予定しております。

前号でお知らせいたしました中・高校生の地域防災訓練への参加体験記に、たくさんの方の応援をいただきました。ご協力ありがとうございました。この作品も地域防災訓練を応援する作品にあふれたものばかりです。

これらのは作品は、事情の許す

地震 基礎知識

こまめくたさっています。センターはあなたのために建てられた施設です。東海地震に備えて、ここで学び、体験し、

昨年十月十七日、サンフランシスコ付近で発生したロスマリータ地震(M7.1)は、東海地震が二つのプレートのおつかり合うところで発生するのと異なり、二つのプレートがすれ違う部分で発生しています。

アメリカの西海岸に沿って、サンアンドレアス断層と呼ばれる、長さ二、三〇〇キロに及ぶ横ずれ大断層が走っています。そしてこの断層の西側の太平洋プレートが北西方向へ、東

この右横ずれの相対運動は、プレートが一年間に平均三センチの割合で動いています。連続して少しずつ滑っていく部分(クリップ現象)と、断層的に大きく動く部分があり、断層に沿って発生する地震は、後者の場合にあたります。

平成九年度も、身近なところでは伊東の群発地震と海浜噴火、海外でもサンフランシスコの地震をはじめ、さまざまな災害が発生し、私たちに多くの教訓を残してくれました。

私たちは、東海地震のほか日常起こりうる全ての災害に対応できる自主防組織ができることを願っております。

この二年間「自主防災」新聞へのご声援ありがとうございます。来年度も引き続きの「愛読をお願ひ申し上げます。」

編集長 高野邦雄

トランスフォーム 断層とは...

いざ地震の時には、最小限の被害を済むよう、日頃から心がけようではありませんか。 地震防災センター

この右横ずれの相対運動は、プレートが一年間に平均三センチの割合で動いています。連続して少しずつ滑っていく部分(クリップ現象)と、断層的に大きく動く部分があり、断層に沿って発生する地震は、後者の場合にあたります。

私たちは、東海地震のほか日常起こりうる全ての災害に対応できる自主防組織ができることを願っております。

この二年間「自主防災」新聞へのご声援ありがとうございます。来年度も引き続きの「愛読をお願ひ申し上げます。」

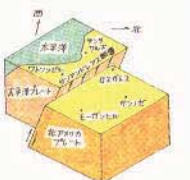
編集長 高野邦雄

編集後記

昨年十一月三日は地域防災訓練の日でした。訓練の日には、次の時代の担い手である中・高校生への参加を強く求めています。この日、作品も次回以降に掲載を予定しております。

前号でお知らせいたしました中・高校生の地域防災訓練への参加体験記に、たくさんの方の応援をいただきました。ご協力ありがとうございました。この作品も地域防災訓練を応援する作品にあふれたものばかりです。

これらのは作品は、事情の許す



断層とは...

東海地震を最前線を迎えつつ、最も重要な地域防災の担い手である自主防災組織、静岡県では昭和四十九年の七夕豪雨災害を機に誕生して以来、十五年を経過しました。その後、昭和五十二年の東海地震を受け、自主防災会は全県下で急速に結成が進み、今では全県でも先進県と評価されるに至っています。

この十五年を振り返ってみますと、まず町内会の運動会や婦人会の会合などで、自主防災組

が進められました。訓練もさまざまな形で、九月、十月の訓練や夜間の宿泊体験訓練、マニュアルづくり、中・高校生を積極的に受け入れた地域、体化の訓練など

少しくも早くしようと、無報酬の誇りで、平日ごちろ打ち込んでもおられる姿は、大変偉いものであり、感謝にたえません。

この十五年を二つの節目として、県下全域で二層防災意識を

編集後記

編集長 高野邦雄

自主防災

第 9 号

平成2年(1990)7月1日

編集・発行/静岡県自主防災組織活動推進委員会

発行所/〒420 静岡市追手町9-6

静岡県地震対策課内推進委員会事務局
☎0542-21-2019

みんなで話そう地震対策

小さな手から大きな力



焼津市立港中学の炊き出し訓練(平成元年12月3日地域防災訓練にて)

仕事やスポーツと同じように、生きることに
もコツがあります。いつでも、どこでも生きの
びていける技術は、練習を重ねることではか
得できません。

静かな時こそ考えよう、万が一。

私たちは普段の忙しさにまぎ
れて、災害の恐ろしさを忘れが
ちですが、新聞には毎日のよう
に、国の内外で起こった地震や
火災、交通事故が報道され、ど
こかで誰かが被害を受けてい
るのが現状です。

昭和五十一年に東海地震説が
発表されて以後、静岡県内には
伊豆大島近海の地震、東名日本
坂トンネル火災、静岡駅前ボー
ルデン街ガス爆発事故など、忘
れてはいけない災害や事故が起
こっています。

最近、七十年周期で起こって

地震の最大の敵は油断です。
私たちは、わかりきっていること
をつい見過したり軽く扱いがち
ですが、この心の油断こそが地
震に対して一番の禁物です。東
海地震を知り、自分の家の準備
を確認し、東海地震に先んじた
知識と知恵を働かせた行動こそ
が、あなたと家族を守ります。
また自主防災活動も、地震だ
けではなく風水害などの自然災
害にも目を向けてみましょう。

たえず 防災の心構え 忘れずに

昭和三十三年の狩野川台風や四
十九年の七夕豪雨も、忘れるこ
とのできない貴重な教訓を残し
ています。

予想される東海地震の規模は
想像以上の大きさで、被害も計
り知れないといわれています。
東海地震については、予知で
きることを前提に最大限の努力
が積み重ねられています。

静岡県防災局技監 井野盛夫

いる小田原地震(一九三三年の
関東大地震と同じ震源であるが
小規模)の発生時期が迫ってき
ているので、神奈川県は対策を
積極的に進めています。当時、
この地震によって、県境に隣接
する市町村では大きな被害を受
けました。

また一昨年夏より、県中部
から西部の地域で突然地震活
動が低下し、いわゆる地震の
静穏化が続いています。地震
活動の不活発化した後に大
中地震が起こることがあるた
め、浅田地震予知連絡会長は

知されたとしても、地震に対す
る準備ができていなければ、何
の価値もありません。
しかも、地震は東海地震だけ
ではありません。伊豆東方沖の
群発地震、海底噴火などのよう
に思わぬ時に襲ってくる場合も
あります。県中部の地震も気が
かりです。予知できない震源の
浅い直下型地震も、規模は小さ
くても決してあなどれません。



推進委員会委員 長 徳田 権作

災害をあなどらず、たえず自
分自身に防災の心構えを呼びか
け続けることが大切です。
昨年四月にオープンした地震
防災センターも五万人を超す大
勢の皆さんが利用して、知識と
体験を深めています。今年こそ
一人ひとりの防災意識がより高
まり、自主防災組織の活動も能
動的で実戦型となることを期待
します。

中規模地震に注意を喚起してい
ます。
残念なことに、このクラスの
地震予知は、まだ実用化の段階
に至っていません。皆さんは昭
和十年の静岡強震クラスが突然
起こったとしたら、家族を安全
に守る自信がありますか。災害
から自分の命や財産を守るの
は、自分の努力と自主防災の組
織力があります。もう一度
身の回りや家の周辺を点検し
て、万一の災害に備えるようお
願います。

今でも噴気を上げるダブルブル右端下に見えるのがラバウル空港の正面



は七百以上の部族からなり、文化人類学上残された宝庫といわれ、いまだに石器時代そのまま

自然のままに生きているから その怖さも知っている

ラバウルの防災対策を調査して

ラバウルは第二次世界大戦当時の重要な基地であったこともあり、日本人には比較的なじみのある地名である。しかし、ここが赤道近くのパプアニューギニアという国にあることは、あまり知られていない。

一九七五年に独立したこの国

援に出掛けていたのだった。そんな中で、一人の老人が道路の向こうで自分を指差しながら、大声で私たちに何か叫んで



ラバウルが、首都ポートモレスピエに次ぐ第二の港を持って栄えているのは、じつは二万四千年前に火山の大噴火により一帯が大きく陥没し、天然の良港ラバウル湾を形造ったからでもある。こんなラバウルの街に、私たちは今年の三月二十五日に降りた。

ラバウル空港に着くと、灼熱の太陽が降り注ぐ中、真っ黒な肌をした人たちが空港のまわり

ラバウル火山観測所の火山噴火予知の体制や、東ニューブリテン州政府の防災対策計画の説明等を各機関で受け、なるほど緻密な計画が立てられ、またしつかりとした警報

しているのか、半信半疑であった。しかし調査が進むにつれ、また街で出会う地元の人たちと話をする機会が増えるにつれて、こんな疑問も次第に消えていった。

ここラバウルでは、古くは一九三七年にラバウル湾を挟む二つの火山（フルカン、ダブルブル）が噴火活動を始め、約五百人の命が奪われ、多くの家屋や道路等が被害を受けた。このうちダブルブルでは今でも山頂から噴気を上げている。



直立不動で写る地元の人

山性の地震活動が十四カ月間も活発に続いた。この時は街の人口が半減したのであるが、じつは州政府があらかじめ定めていた避難計画に従って、約一万人（この街の人口は一万六千人程



いざという時は避難者を輸送するバス

度)が避難場所に避難していたのである。

こんな経験をもっているため、この住民たちは自分たちがどこに避難するのか、また地震活動が活発になって、州政府が避難命令を出したら即座に避難することを知っており、またその意味、つまり避難地では自分たちが食料を確保しなければならぬこと、長期化するとなれば数カ月も避難生活を送らなければならないことなどを、よく理解していた。

ここは赤道直下の熱帯の島というところもあり、何事もおろかでのんびりした所である。人々は自然のままに生き、またそれがために自然の恐ろしさも十分理解し、案外敏感である。私たち日本人は、文明社会の中で自然の猛威について少し忘れかけているのではないかと、大いに考えさせられた。

県地震対策課職員 岩田孝仁

※ラバウル火山観測所

ニューブリテン島一帯の火山活動の監視を二手に行っている。日本のように、たくさん機関が各地で観測を行っている実情とは違い、一元的に監視を行っているため、規模は小さくてもなかなか効率的にまとめた体制である。ただ所長が漏らした「最近はず算も削られ、また一番の問題は優秀な技術者が大幅に不足している」との一言が気にかかった。

※東ニューブリテン州政府

パプアニューギニアでは、防災対策や避難命令の発令を州政府が行っている。うまくたてられた防災計画や避難地、避難路、そして危険地域を明示したきれいな地図を見せられ、感心させられた。

防災訓練の感想
 町立吉田中学校3年
河本恵吾

去年の十二月三日に防災訓練があった。この日の訓練は、消火班、放水班、救護班に分かれてやった。

僕は、放水訓練の班になった。この訓練では、中学生は大人の人たちがポンプを動かしているのを見て、後かたづけをするだけであった。しかし、大人の人たちが真剣にとりくんでいるのも気にせず遊んでいた一部の下級生がいた。僕ら上級生が注意しなかったことも悪いが、とてもしねえんだ。

放水訓練の後、僕は、消火訓練に参加した。ここでは、消火

防災訓練に参加して
 町立吉田中学校3年
山崎晶也

昨年十二月の地域防災訓練に、ぼくも山八町内会の一人として参加した。消火器の使い方や、ホースでの水まきのやり方などをおそわった。

また、大きな地震が起こっていないので、本当に起こってたら、ぼくは、どうなることだろうと思った。訓練などでも、こんなものは簡単にすませればいいと考えていたが、実際にそ

器の使い方をくわしく説明して、実際に火を消すことだ。中学生も同じ地区に住む大人たちも真剣にとりくめていてよかったと思った。女子の人たちは、救護をやっていた。

この日は、この地区のほとんどの家が参加していたようによかったと思う。こんなふうに住民のみんなが防災に関心をもってれば、実際に地震などの災害にあっても被害は少なくなると思つた。

中高生の訓練体験記

この日の訓練の初めに、町長さんが中学生に、「実際に災害が起こった時は、大きな戦力になるよう訓練にとりくんでほしい」と言われた。この言葉どおりにするにはならなかっただろうけど、ほとんどのみんなが、住民の人たちと協力して訓練している、こういうところから人々のふれあいというところに、防災への関心が高まればと思つた。

この日の訓練で、僕は防災の知識やいろいろなことを学んだ。こういう訓練はどんどんやってほしいと思つた。訓練に参加してよかった。

三つ目は、人の話をしっかりと最後まで聞いて確実に仕事をこなすことができるようになったこと。これは、学校の授業や行事の時と同じようにいつでも、しっかり話を聞けるようになった。

この訓練に出て学んだことがたくさんあった。まず一つ目は、必要な道具の使い方などを見ることができた。確実に、落ち着いてやるべきことがわかるようになった。

二つ目は、訓練の大切さ。いつくるかわからない地震の時に、どんなことをしたらよいかなど。

焼津市立小川中の防災訓練を見学して

マグニチュード8.5、震度7、窓ガラス、外壁の一部が破損廊下にひび割れができたが校舎は無事。生徒の中に落下物、ガラスの破片などによる負傷者が出る。各学級重傷者一名、軽傷者一名。数回の余震と津波の来る

なるよう訓練にとりくんでほしい」と言われた。この言葉どおりにするにはならなかっただろうけど、ほとんどのみんなが、住民の人たちと協力して訓練している、こういうところから人々のふれあいというところに、防災への関心が高まればと思つた。

この日の訓練で、僕は防災の知識やいろいろなことを学んだ。こういう訓練はどんどんやってほしいと思つた。訓練に参加してよかった。

三つ目は、人の話をしっかりと最後まで聞いて確実に仕事をこなすことができるようになったこと。これは、学校の授業や行事の時と同じようにいつでも、しっかり話を聞けるようになった。

この訓練に出て学んだことがたくさんあった。まず一つ目は、必要な道具の使い方などを見ることができた。確実に、落ち着いてやるべきことがわかるようになった。

二つ目は、訓練の大切さ。いつくるかわからない地震の時に、どんなことをしたらよいかなど。

襲により、付近の民家、田畑は浸水と地震の被害を受ける。これはさる三月一日に焼津市立小川中学校で突発地震を想定して実施した、学校防災訓練の状況想定です。

訓練は振音を使って地震発生を知らせ、人命救助を第一のねらいとして始められました。生徒を校外に避難させない、学級担任は生徒から離れないで生徒を見守る。生徒による被害状況と負傷者、重傷者のケガ状態を本部へ報告。部長は各報告をとりまとめ、折り返し学級担任と生徒に指示を伝達し、すべて手きわよく行われました。

この間に、各クラスでは学級担任を中心に数名の生徒により、三角布を使って応急処置を実施。手当て等の記録をさせました。指示により重傷者は生徒



用会議室へ、また軽傷者は生徒室への搬送が生徒の手で行われましたが、学級担任は廊下までの指示で、学級から離れませんでしたが、その後、本部からの指示で運動場に集合し、工作班による本部テント設置、仮設便所の設置、救援班による保育園児の介護付き添い活動、給食給水班によるかまど、湯わかし場、こし水作りなどが行われました。

この間、重傷者を収容した生徒用会議室では、養護教諭の指示で数名の女子生徒による救護活動がほどこされていきました。それは、右手からの出血が止まらないから手を心臓より高くあげさせるとか、首筋により寒気があるから毛布をしっかりとかけさせた、という実際の考ええた訓練活動で、担任の救急処置が適

き、どの程度の効果があるのか疑問に思っていました。そこである日の夜、おじいちゃんやんが寝床にはいつたのを見はからって、枕元にある押しボタンにとびついてみたのです。ところがたいへん、大きな音で外のベルが鳴り出してしま

切であるかをチェックしました。地震発生から救護活動終了まで四十五分かかりました。その後、本部からの指示で運動場に集合し、工作班による本部テント設置、仮設便所の設置、救援班による保育園児の介護付き添い活動、給食給水班によるかまど、湯わかし場、こし水作りなどが行われました。

この間に、各クラスでは学級担任を中心に数名の生徒により、三角布を使って応急処置を実施。手当て等の記録をさせました。指示により重傷者は生徒

き、どの程度の効果があるのか疑問に思っていました。そこである日の夜、おじいちゃんやんが寝床にはいつたのを見はからって、枕元にある押しボタンにとびついてみたのです。ところがたいへん、大きな音で外のベルが鳴り出してしま

子ネコのひとり言

私は、東海地震対策では全国でも有名な、静岡県清水市に住むネコというおじいちゃん世話になつていて、ネコです。私を可愛いがってくれるおじいちゃん、二階に寝起きして

いるのですが、八十歳をすぎた高齢で足が弱く、自分の力では階段の昇り降りできません。夜は家の人もいのですが、昼間はおじいちゃんとおじいちゃんとの生活です。

こんな時に東海地震とか大きな災害が起きれば、おじいちゃんはどうなるのだろうか、心細い毎日を送っていたある日、



清水市船越東町
山梨 晋

さんが来て、家の外に「救助ベル」を取りつけ、おじいちゃんやんが寝床のそばに押しボタンをつけてくれました。私は正直なところ、おじいちゃんやんがこのベルを鳴らすことには、いまいち納得していませんが、万が一にも鳴らす必要があったら

き、どの程度の効果があるのか疑問に思っていました。そこである日の夜、おじいちゃんやんが寝床にはいつたのを見はからって、枕元にある押しボタンにとびついてみたのです。ところがたいへん、大きな音で外のベルが鳴り出してしま

とのように心配し、急いでかけつけてくれる「助けあいの心」をもっている人たちであったこと、それからベルの効果の大きさに感じました。おじいちゃんのために、いたずらをしてよかった。とひとり満足しているのです。

急救処置

精神的ショックから 喘息の発作が：

喘息は、気管支の粘膜が過敏状態にある人が、花粉・ほこり・一部の食品の刺激によってアレルギー反応をおこすことをいいます。しかし精神的ショックやストレスも、喘息をひきおこす原因です。いざという時に備えて、喘息発作の手当ての方法を知っておきましょう。

(症状と手当て)

夜間特に明け方に、突然呼吸困難が来ます。また、くしゃみや咳・鼻つまりなど風邪のような症状が前ぶれとしておきることもあります。

1. せーせーと喘鳴のする呼吸困難に対しては、すわって机

6. 顔色が悪くなったり、唇の色、指や爪の色が白くなったり紫色になる場合には、かかりつけの医師に連絡しましょう。

地震防災センター「あんない

「二周年を迎えました」

喘息の予防には、その誘因やアレルギーをおこすものであるアレルゲン(花粉、じゅうたん・布団等のほこり、犬猫などの毛、牛乳、卵、魚等)をできるだけ避けることです。室内は整理整頓し、ほこりがたまらないようにしておきましょう。

五月のはじめに、市内の高校生約百三十人が地震防災センターを訪れました。昨年四月の開館以来、保育園のかわいい子供たちから寿大学院のおじいさんおばあさんまで、多くの方々がセンターを利用していましたが、

高校生の利用が少なかったのが、センターは大喜びでこれを迎えました。

しかし高校生の男子百三十名というところで、どんな事をどうやって話したら、またどんな案内をしたら喜んでもらえるのか、そして、地震防災の重要性をどうすれば理解してもらえるか心配もしていました。

一階の展示コーナーでは遠慮がちに遠くの方からついでくる生徒が、二階のないホールでの16分防災映画の時には少し居眠りする生徒もいました。けれど、多くの皆さんは東海地震の内容、防災訓練の参加呼び掛けの熱意などを目を輝かせてしっかり熱心に聞いていました。帰る時「玄園でありがとう」「きょうなら」と、しっかりと挨拶をする生徒も大勢いました。

地震の話、防災の事となると、口頭あまりなじみがありません。それでも、東海地震に備えよう、をキャッチフレーズとするセンターを、多くの皆さんが利用しています。

団体で利用する場合には、地震がどうして起こるのか、東海地震とは何であるのか、静岡県はなぜ地震対策に積極的に取り組んでいるのか、そして予想される東海地震による被害をいかに少なくできるのか、の話を聞くことができます。

話のあとは展示コーナーや、地震の揺れ、煙からの避難を体験したり、津波の恐ろしさを感じ取りました。さらに時間がある方は、16分防災映画

新しい推進委員をご紹介します



推進委員 大高 端 芳

昭和五十九年伊東市宇佐美地区
宿自主防災会会長、同六十二年
宇佐美区自主防災連合会会長に
就任し、地域のリーダーとして
防災活動に積極的に取り組みんで
きました。

また昨年六月から七月にかけて発生した群発地震および海底噴火においては、宇佐美区の自主防災会をよく統率するとともに、日ごろからの防災活動を生かして、被害を最少限におさえるなど大きな働きをしています。

今後、推進委員として、これまでの体験を生かした活躍が期待されています。

○北川正枝／島田市宮川町自主防災会元婦人防災委員

○水野純子／静岡赤十字病院医療社会事業部保健婦・赤十字救急法指導員

○木村文一／下田市大和区自主防災会会長

○中嶋清治(副委員長)／新居町自主防災連合会会長

○高野邦雄(編集長)／富士市石坂一丁目自主防災会会長

○大石勇輝(副編集長)／焼津市第12自主防災会会長

○杉山好／裾野市地震防災指導委員会会長

○同井正治／天竜市西吉町自主防災会会長

○中嶋清治(副委員長)／新居町自主防災連合会会長

○高野邦雄(編集長)／富士市石坂一丁目自主防災会会長

○大石勇輝(副編集長)／焼津市第12自主防災会会長

○杉山好／裾野市地震防災指導委員会会長

地震知識 「マグニチュードと震度」

「マグニチュード」とは、地震そのもののエネルギーの大きさを表す数値です。また「震度」は各地点における揺れの程度をいって、昔中をさすってあげましょう。

「マグニチュード」とは、地震そのもののエネルギーの大きさを表す数値です。また「震度」は各地点における揺れの程度をいって、昔中をさすってあげましょう。

「マグニチュード」とは、地震そのもののエネルギーの大きさを表す数値です。また「震度」は各地点における揺れの程度をいって、昔中をさすってあげましょう。

「マグニチュード」とは、地震そのもののエネルギーの大きさを表す数値です。また「震度」は各地点における揺れの程度をいって、昔中をさすってあげましょう。

「マグニチュード」とは、地震そのもののエネルギーの大きさを表す数値です。また「震度」は各地点における揺れの程度をいって、昔中をさすってあげましょう。

最近の活動状況

(1) 静岡県中部地域における地震活動

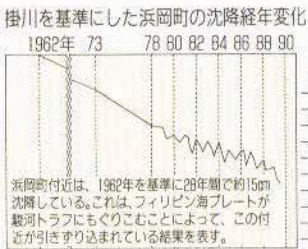
私たちに感じられない地震は、年に約千回ぐらい起こっています。

静岡県中部地域では、昭和六十三年九月にマグニチュード(M)3.3の地震が起こって以来、十カ月以上におわり地震が発生しませんでした。昨年七月以降、M3程度の小地震が静岡市付近に八回発生しました。

静岡県中部地域では、昭和六十三年九月にマグニチュード(M)3.3の地震が起こって以来、十カ月以上におわり地震が発生しませんでした。昨年七月以降、M3程度の小地震が静岡市付近に八回発生しました。

静岡県中部地域では、昭和六十三年九月にマグニチュード(M)3.3の地震が起こって以来、十カ月以上におわり地震が発生しませんでした。昨年七月以降、M3程度の小地震が静岡市付近に八回発生しました。

静岡県中部地域では、昭和六十三年九月にマグニチュード(M)3.3の地震が起こって以来、十カ月以上におわり地震が発生しませんでした。昨年七月以降、M3程度の小地震が静岡市付近に八回発生しました。



観測が続けられています。十年以上連続した測定の結果

観測が続けられています。十年以上連続した測定の結果

編集後記

地震・雷・火事・親父といわれるように、地震が自然災害のなかで恐ろしいもの、筆頭であることは、昔も今も変わりはないでしょう。

地震予知の研究は時間の経過とともに進歩してきていますが、防災意識は逆に低下してきているといわれています。

本年度の推進会は年間テーマを「防災意識を高めよう」と決めました。そして防災意識の低下に歯止めをかけ、災害への対応の日常化を図って防災意識を高めていくために、創意工夫を加えながら繰り返し意識啓発に取り組みすることにしました。

昨年度から本紙は発行部数を六十五万部とし、反復・継続的な防災広報活動をしてきましたが、いみじくも盛り上がりが見られるのを感じています。

これからも皆さんに愛読される紙面づくりに努力をし、県民が総力を挙げて災害を防ぐという姿を見ることが楽しみに頑張ります。

皆さんのご声援をお願いいたします。

編集長 高野邦雄

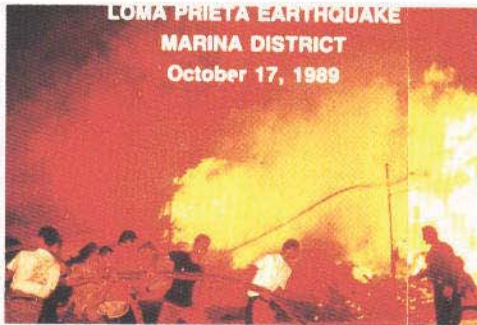
自主防災

みんなで話そう地震対策

第 10 号

平成 2 年 (1990) 9 月 1 日

編集・発行／静岡県自主防災組織活動推進委員会
発行所／〒420 静岡市追手町9-6
静岡県地震対策課内推進委員会事務局
☎054-221-2019



「被害を最小限にくい止められるのは人の力です」

いいことは真似しよう

アメリカ西海岸近況報告

ロマプリータ地震の教訓から

昨年の一〇月一七日に起きたアメリカ西海岸でのロマプリータ地震。この地震を体験して、アメリカの行政機関がどのような応急活動を実施したのか、またその後の防災活動にどのように取り組んでいるのかを知るために、六月上旬アメリカ西海岸へ調査に行ってきました。

東海地震に備えて、静岡県でもさまざまな地震対策が行われています。しかし、現実起こった地震災害からは、私たちが経験していない多くの貴重な教訓



そして、その映像を通じて感動を覚えたのは、多くの市民が積極的に救助

たりにしているかのようにテレビ映像で見ることができたことです。現地では、停電と電話の不通で、市民がとてもしずな生活を強いられていました。

ティアの組織化も充実し、何よりも市民一人ひとりのボランティア精神が発達しています。

私たちは、アメリカに比べボランティアの育成が不十分といえます。しかし、それ以上の働きをするであろう自主防災組織が結成されています。自分たちの手で、町をあらゆる災害から守ろうとする精神は、昨年の伊豆半島東方沖での群発地震と海底噴火の時や、六月下旬の沼津市での工場火災の時に自主防のみなさんが活躍したことで、大いに発揮されました。

「市民一人ひとりに浸透する防災教育を目指して」

活動に参加していただくことです。サンフランシスコ市マリナ地区での火災に必死になって消防活動をする人々。オークランド市での高速道路崩壊現場で危険をおしてケガ人の救助活動をする人々。停電で止まった道路信号に替わって交通整理をする人々。そのほか被災後の建物安全度評価作業や、各地に設けられた被災者救助センターでの奉仕などにも多くの人々が献身的に参加しました。特に若者たちの真剣な姿は印象的でした。

ところで、カリフォルニア州の西海岸地域は、静岡県と同じように今後も大地震が懸念されている所で、行政機関の市民への防災教育も、非常に熱心に行われています。

今回の調査では連邦政府、カリフォルニア州政府、サンフランシスコ市、そしてアメリカ赤十字等の多くの機関を訪ねました。そこでも、地震後の民間団体や市民の積極的な参加・活動が、被害を最少限にし、大混乱を防止したことが高く評価されています。

その中から一部を引用してみましよう。みなさんも家族そろって大いに利用してください。

県地震対策課地震防災センター
職員 小島武

地震のまえ



防災用品を蓄えよう

- ・ビンまたは缶の飲料水
- ・救急医薬品(ばんそうこう、消毒剤、アスピリン)
- ・懐中電灯(乾電池予備も)
- ・携帯ラジオ(乾電池予備も)
- ・消火器
- ・缶切り、レンチ、鋸、プラスチック容器、スプーン、紙コップ
- ・家族が特別に必要なもの(医薬品、幼児用品)
- ・ベッド用品(寝、食料)
- ・靴(ベッドのそばに置くとい)

家庭の備えをしよう

- ・家の中で安全な所を知る
- ・自分の家からの避難所を知る
- ・睡ればなれになった時の場所を決めておく
- ・遠くの人と連絡をとっておく

危ない物や家具を固定しよう

- ・滑る物、倒れる物、落ちてくる物は、床や壁にしっかりと固定する

地震のとき



家の中では…

- ・机の下、出入り口、部屋の隅へ
- ・窓、鏡、暖炉、落下するタイル、高いタンス等のそばは避ける

家の外では…

- ・広々とした所へ
- ・建物、大きな木、壁、電線等のそばは避ける

混雑している所では…

- ・出口へ殺到しない

車を運転している時は…

- ・道路の歩道側で停車する



地震のあと



負傷者を確認しよう

- ・ケガをしている人、出血している人に応急処置をする
- ・重傷者は毛布をかぶせて動かさないようにする

被害状況の確認をしよう

- ・ガス漏れをチェックする
- ・火を焚く時は気をつける
- ・切れた電線には気をつける(危ないから近くに寄らない)
- ・水道漏れには元栓を閉める

情報を知るために

- ・携帯ラジオをつける
- ・緊急以外は電話を使用しない
- ・緊急以外は乗り物を使用しない

余震に注意しよう



地域防災NEWS

あのまち、このまち、みんながんばってます。



実行すれば何事も可能です

清水市二の丸町自主防災会の場合

JR清水駅の西、巴川の手前に広がる商店や住宅の密集地に二の丸町があります。この界限では、子供たちが町内のおじさん、おばさんに「こんにちわ」と元気よくあいさつする光景がよく見られます。それは、みんながみんな顔見知りだからです。

二の丸町の自治会は、全員参加を目指して自主防組織づくり



天ぷら油火災の消火訓練



に取り組み、成功していることで知られています。県内でも高く評価され、昨年は知事賞を受賞しました。

会長の渡辺正範さん(六三)をはじめ、役員の方々はまだ現役も多く、みなさん忙しい身。それでも活動内容は多彩です。

二月の県下一斉に加え、七月には町独自の防災訓練を行い

ます。参加の呼びかけには手づくりポスター、ボランティアで描いてくれる若者がいるとか。

そのほか「ふれあい講座」といって、市の職員などを招いて勉強会を開いたり、アンケート調査を行ったりします。回収率は何と九三%だそうです。

とにかく自分たちで考え、自分たちで作るのがモットー。ちなみに、訓練会場でもある避難地・江尻幼稚園も、役員で選びました。「本来は江尻小だったんですが、海抜四層というのが気になりました」と、役員森さん(五四)の話に熱がこもります。



誰が呼びかけたでもなく自然に消火を...

沼津市我入道の 火災現場から

六月三日深夜、沼津市我入道津島町で水産加工場(約二〇〇平方メートル)の火災が起きました。

この惨事の中で、地元の津島町自主防災会と隣接の浜町自主防災会の献身的な初期消火活動によって、周囲への延焼が最小限に食い止められたニュースが私たちを力づけてくれました。



「隣町同士ということで、互いに災害時の協力態勢を確認し合っていました。今回ほんとうに、みんなが自分の町内のことのように協力してくれました」と、出火と同時に、だれが呼びかけたでもなく、気がついてた何人かで消火栓を開けていたそうです。

自ら、真っ赤な炎が上がっている工場と隣家のすき間からホ

とここで、どの地区も頭を痛めているのが、近隣と隔離状態にあるマンションの住人をどう参加させるか、ではないでしょう。二の丸町も事情は同じ。

「いやがられても我慢して何度も顔を出しました。お宅は何回出席ですよ」と数字を出すとき、案外びっくりするようです。

その甲斐あって今年、ふれあい講座にマンションの若い奥さんが何人か出席しました。「次も必ず出席します」と言われた

局と地元自主防災会のみなさんにお話をうかがいました。

「自分たちの町は自分たちで守る」の精神で、毎年四回行っていた訓練が生かされて、消火栓からの迅速な放水ができました」と、前津島町防災会長の良野好彦さん(六四)は話してくれました。

実際、出火元の加工場と周囲の民家とは、四軒道路一本で隣接しています。熱風と爆風により屋根から煙が出はじめたものの、自主防の放水で類焼を免れたという隣家を、この目で確認することができました。

前浜町自主防災会長の菅沢要さん(七二)はおっしゃいます。

募 集 私たちの自主防自慢

自主防活動は、コミュニティ活動の原点ともいえます。町を災害から守るために、ともに暮らす住民が手をとり合って協力することは、やがて町づくりにもつながっていきます。

こうした質の高い自主防活動を進めていくためには、より多くの人々が情報を交換することが大切です。

そこで、みなさんのユニークな活動や効を奏したアイデア等、私たちの自主防自慢の原稿を募集しています。写真も原稿に添えてお送りください。

また、情報提供をしてください。こちらから取材にうかがいます。

みなさんぜひ「自主防自慢新聞」に参加してみてください。

■応募方法 原稿に住所・氏名・所属自主防災会名・職業・年齢・電話番号を明記

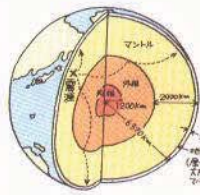
■送り先・問合せ 静岡県地震対策課・推進委員会事務局 〒四二〇静岡市東手町九一六〇〇五四(三二)二〇一九



タンクの爆発で、大きな炎の塊りが道路を走ったという。写真はその塊りの通り道にあたった庭木で、葉がすっかり焼けている。



地球の内部は？



地球の内部は卵の構造と似ています。外側から卵の殻にあたる「地殻」、白身にあたる「マ

ントル」、黄身にあたる「核」に分かれ、核の部分はさらに「外核」と「内核」に分かれています。

考えられています。どうして、こんな事が分かるのでしょうか。それは八百屋さんがスイカを指ではじいてその響きで中身を探るように大きな地震の波の伝わり方を解析して推測します。マントル部分がゆっくり対流運動をする動きが地震をひきおこす原動力と考えられています。つまりこのマントル対流の表面近く(薄いとされている)がベルトコンベアのように一年に数センチ程度の速さで移動しており、それにのった地殻(プレートに相当)がぶつかったり、すれちがったりしているわけです。

地球を考える

自然を観る



これが丹那断層！

この写真は、昭和五年一月二六日北伊豆地震(M7.3)をひきおこした時に地表に現れた丹那断層です。(田方郡函南町田代、火雷神社)

断層とはある部分をはさんで力が集中し、その力を両側の岩盤が左右、上下方向に違いを起こして解消する現象をいいます。ここでは、右段と手前の鳥居の間を南北方向に断層が走っており、最大三・五メートルのずれ(断層線をはさんで相手側が左側に動いている場合)を起こしました。断層は箱根町から修善寺町にかけて約三・五キロにわたっており、火雷神社以外でも、所々で地盤のくい違いを見ることが出来ます。当時、断層が生じた丹那盆地の真下では、東海道本線のトンネル掘削中であり、トンネル内でも、水平方向に約三・七メートルのくい違いを起こしています。

9月1日は
総合防災訓練

中・高生が
参加したくなる訓練を
工夫しましょう

① 中高生の担当班をおく
② 事前に中高生の参加できる訓練科目を工夫
③ 防災会ごと、中高生の家庭に訓練実施の周知徹底
④ 山町村防災担当者を中心に自主防と学校間の連絡を密に

・警戒宣言発令時から発災後まで、中高生の若い力が必要になることは確実です。また将来の自主防災組織の担い手として、も大いに期待されています。

地域住民の一人である中高生が、ふだんから地域の人たちとともに訓練に参加することは、防災の必要性を認識し意識を高めるためにも大変重要なことです。自主防災組織としても、生徒の受け入れ体制づくりに全力で取り組んでほしいと思います。

そこで、中高生を迎え入れるために、次のような工夫を考えました。

※家庭での出火防止や家具の固定等の安全対策を百歩からしっかり行い、家族そろって話し合いもしていきましょう。

・ 防災会全員の協力で訓練を成功させて下さい。



ナマズ博士の地震講座

ひずみの蓄積が...

この図は、明治三三年当時と現在の地面の高さを比較したもので、数値が大きいほど変動は激しいのです。

全体の傾向として、駿河湾の西岸(沼津付近・掛川付近)では沈降、掛川の西では隆起しています。この変化は、駿河湾の中央部(駿河トラフ)にゆっくり沈み込むフィリピン海プレート(伊豆半島側)により、ユーラシアプレート(駿河湖西岸)がひきずり込まれることから沈降が生じていると考えられます。清水から榛原海岸にかけての沈み込み量は、八〇年間で四〇



図表を読む

歴史に学ぶ

ディアナ号はどこ？

一八五四年二月三日、駿河湾から紀伊半島沖にかけてマグニチュード八・四の大地震が起きました。地震と同時に大津波が発生、伊豆半島の西海岸から遠州灘、さらに伊勢湾にかけて被害が最もひどく、内陸での地震動による被害も大きく、地盤の悪い地域では家の倒壊率が九〇〜一〇〇多といったところも出ました。

特に、津波は千葉県の房総から高知県の土佐の沿岸を襲い、県内でも三〜七層程度の波高になり家が流されたり海水が田や畑に入ってしまった。



途中、強風により田子の浦沖で沈没しました。近い将来発生が予想される東海地震でも、この安政東海地震と同様な震動と津波が予想されています。

Check Card

みんなで、考えよう	Yes	No
家族の役割分担は決めているか？	Yes	No
避難先、避難方法は決めているか？	Yes	No
家族の連絡方法は決めているか？	Yes	No
家族の落ち合う場所は決めているか？	Yes	No
わが身を、守ろう	Yes	No
家の耐震診断はしたか？	Yes	No
家の周りの安全点検はしたか？	Yes	No
家具の固定はしたか？	Yes	No
家中に、安全な場所はあるか？	Yes	No
火は出さない	Yes	No
ガスを使用しないときは、元栓を閉めているか？	Yes	No
火器器具の取り扱い、整理しているか？	Yes	No
ガスボンベは、倒れないように固定しているか？	Yes	No
消火は、よいか	Yes	No
消火器や消火バケツは用意してあるか？	Yes	No
消火器の定期点検はしているか？	Yes	No
風呂に水は溜めているか？	Yes	No
飲料、飲料水は、どうか	Yes	No
非常持ち出し品は、準備してあるか？	Yes	No
非常持ち出し品は、定期点検をしているか？	Yes	No
非常持ち出し品は、重量にも注意しているか？	Yes	No
食料は、備蓄しているか？	Yes	No
飲料水は、備蓄しているか？	Yes	No



応急処置 — その1

長時間、炎天下にさらされると 知らない間に日射病に

車内は60度、二歳の長男死亡。両親は4時間パチンコに熱中。こんな悲しい新聞記事が夏になると毎年のように見られます。外気温の高い夏には、直射日光の下で重労働をしたり、長時間炎天下にさらされていたりすると、日射病になります。直

気道確保の体位



射日光以外の高い熱でも、同じような状態になることがあります。この場合は熱射病といえます。症状は、顔が赤く、皮膚が熱く乾き、発汗はなく体温が高く

なります。頭痛、めまい、吐き気などもみられ、ときに意識がなくなることもあります。救急処置としては、●涼しい場所へ運び、衣類をゆるめて、水平位または上半身をやや高めに寝かせる。●意識がないときは頭を後ろに

で体を拭いたり、氷枕で頭や体を冷やす。日射病や熱射病とは別に、熱疲労という症状もあります。むしろ暑い所で、汗をひどくかくようなことがあると、顔色は白く、皮膚は冷たくべとべととして、発汗が多くなる、という状態になることがあります。●こんな場合には、●水平位または足の方をやや高めに寝かせる。●熱がなく、皮膚が冷たい場合には冷やしてはいけない。●予防策としては(暑い時期)●汗をとる吸湿性のある肌着や通気性のある衣服を着る。●水分を他の季節より多くとる。●直射日光下では、帽子や日傘を使う。

津波 — それが恐ろしいものだということは分かります。でも、どのくらい恐ろしいものかは体験しないと分かりません。昭和五八年の日本海中部地震は津波の被害が大きく、その死者は一〇〇人にものぼりました。その中には、遠足で海に來ていた小学生三名も含まれていました。

地震防災センターご・あ・ん・ない

津波コーナー アツという間に家々がのみ込まれて...

津波 — それが恐ろしいものだということは分かります。でも、どのくらい恐ろしいものかは体験しないと分かりません。昭和五八年の日本海中部地震は津波の被害が大きく、その死者は一〇〇人にものぼりました。その中には、遠足で海に來ていた小学生三名も含まれていました。

津波 — それが恐ろしいものだということは分かります。でも、どのくらい恐ろしいものかは体験しないと分かりません。昭和五八年の日本海中部地震は津波の被害が大きく、その死者は一〇〇人にものぼりました。その中には、遠足で海に來ていた小学生三名も含まれていました。

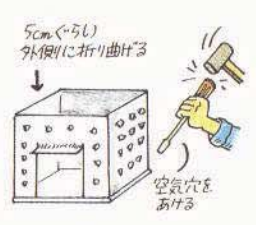


津波体験コーナー。模擬の津波が押し寄せ、観客の顔に恐怖が広がっている。

SURVIVAL サバイバル教室

かまどの作り方いろいろ

電気もガスも水道も止まり、家もなくなってしまうたら、とても生きられそうにありません。でも、だいじょうぶ。人間には道具を使う知恵があります。まず生きていくのに不可欠なものは、といえは「火」です。そこで、手軽で持ち運びのできる簡易かまどの作り方を紹介しましょう。



の上部五枚を残した二〇×一八センチを切りとります。残した五枚は外側に折り曲げると炎の上昇防止に役立ちます。燃料の薪を燃え易くするために、缶の周囲に点々と穴を開けるといいでしょう。



上にのせる釜は一升炊きぐらいのものが適当ですが、小さな鍋などで煮炊きする場合は缶の上部に鉄棒を並べて、その上のせるといいでしょう。ドラム缶(一八〇センチ)の場合、背が高すぎるので二つに切り、かまどを二つ作り、あとは一斗缶の工法で可燃性を高めるために煙突をつけるといいでしょう。

いざという時の



伝達手段はどうすれば...

「手紙を以って一筆申し上げます。中略...」
「中略...さて先日は稀な大地震で誠に大変な事でございます。御案内御老人様方をはじめ御一統様御別業はございませんか。中略...早速お伺い申すべく、この間御伺いに差し上げ

定期便の飛脚が来なくなったとの記述もあり、この書状がいつ届届けられたかは不明です。

飯ごうでごはんを炊くかまどは、ブロックか石などを積み重ねて、二面か三面の囲いを作り、木の枝などの棒を両面の間に渡し、それに飯ごうをかかけます。火の勢いで飯ごうをぶら下げている棒が燃えないう心掛けることが大切です。

「きみは防災訓練についてどう思う？」

中学・高校生の皆さん、二二月の第一日曜日(二日)は、地域防災訓練の日です。ぜひ訓練に参加して、意見や、体験の記録を寄せてください。自主防災

面 入賞作品数は本紙掲載
送り先・問合せ 静岡県地震対策課・推進委員会事務局
四二〇静岡市追手町九一六
〇五四(三二)二二一九

編集後記

私たち推進委員会の年間テーマを「防災意識を高めよう」に決めました。すでに前号でお知らせしました。この自主防衛新聞でもできるだけそうしたテーマに沿うよう、今回からスタイルを一新しましたが、いかがでしょうか。それぞれ防災会の活動状況や問題点、意見、提案などを紙面に載せることで、新たな地域の考え方や計画が生まれるのではないのでしょうか。(大)

自主防災

みんなで話そう地震対策

第 11 号

平成 2 年 (1990) 12 月 1 日

編集・発行 / 静岡県自主防災組織活動推進委員会

発行所 / 〒420 静岡市追手町9-6

静岡県地震対策課内推進委員会事務局
☎054-221-2019



ほんとうの地震だったら「こわい！」
なんて言うてはいられない



今年の静岡県総合防災訓練の会場型訓練は、島田市の大井川緑地を会場として行われました。東海地震説を受けて始められたこの訓練、年々回を重ねるごとに規模も拡大。今年も国、県市をはじめとし、公共機関、公共的団体、民間団体、陸海空自衛隊、学校、自主防災会、婦人消防隊等の約一万人により、実践的な訓練が繰り広げられました。

たしかに会場型の総合訓練という制約のもとで、やや画一的でもありますが、見ている者にとってこれだけの機関団体が一体となって災害発生時に対処することを考えると、非常に心強く感じられました。情報収集伝達訓練から始められ、各種の自動車や作業車の行きかう中、回りに制服で身を固めた各種機関の人たちの機敏な行動が、時間を追うことに展開されていきました。

しかし、そうした派手さはないものの、自主防災会、民間団体、小中高校生の真剣に取り組む姿も目に映えました。今年も小学校が三校、中学校が二校、高等学校が五校参加しました。防災教室会場では、小学生たちの高所からの各種脱出体験訓練などが行われ、貴重な体験となったことでしょうか。また民間自衛消防隊による消火訓練の中には、ヘルメットに法被(はっぴ)姿もなかなか身につけたものでした。



自主防災会の人たちも活躍しました。市内自主防組織の全自主防災会二十八が参加し、小中高校生とともに、起震車体験、煙道避難、炊き出し、ろ水機操作、仮設トイレ設置、災害弱者救出、初期消火、水害による避難、一斉放水訓練と数多くの訓練を行い、日ごろの訓練の成果を発揮してくれました。

なかでも山間地避難民の救出訓練地区となった伊久身地区の人たちは、ヘリコプターによる救出を心強く感じたことと思います。今年も島田市のみならず、県下各市町村で数多くの中学校、高等学校の生徒の参加を得られました。自主防活動に携わる私たちは、これらの若い力をもっとと地域防災活動に組み入れ、地域の中で果たすべき役割をしっかりと位置付け、自主防の担い手に育てあげられるにどうしたらよいか、考えていかなければならないと思います。

東海地震を迎え撃つには、防災会の人たちが地震に対する知識をもっともっとうつけ、防災意識の向上に努めなければならぬいと痛感させられました。



12月にはみんなで参加しよう
防災は、一人ひとりの備えから

1990.12.2 地域防災訓練の日

地域防災NEWS

あのまち、このまち、みんながんばってます。

夜間防災訓練

真つ暗闇は恐怖心をあおります

九月一日の総合防災訓練では、「自主防災組織における夜間訓練」が取り入れられました。これは、アメリカ西海岸の「ロムプリータ地震」や、津波警報が発表された「三陸沖地震」の教訓から、夜間の災害発生への対応が重要視されたためです。



九月一日の総合防災訓練では、「自主防災組織における夜間訓練」が取り入れられました。これは、アメリカ西海岸の「ロムプリータ地震」や、津波警報が発表された「三陸沖地震」の教訓から、夜間の災害発生への対応が重要視されたためです。

これまでも、いくつかの自主防災会で実施されてきましたが、重点訓練項目として導入し



した。投光機が消された暗い中で次々と油の入った容器に火がつけられました。闇の中の炎はより赤く見えるので恐怖感を高めま

私も火のそばまで近づいて消そうと思いましたが足がすくんでうまく近寄れません。昼の訓練ではうまく消したことがあったのに夜は距離感がつかみにく

お父さんのいない昼間は君が主役

中高生の防災講座

東海地震が発生し、それがウィークデ이의昼間だったらどうでしょう。住宅地に男性が少ない時間帯です。

さて、今年の七月八月にかけて県内の各振興センターでは、こうした必要から下記のとおり「中高生の防災講座」を開催しました。

防炎班長さんの誘導で、危険なブロック塀のあるところは速回りしながら、みんなと一緒に歩きました。歩きながら、訓練だから混乱もせずに避難できて

初めての試みとあって、関係機関の協力も得て各センター二百名前後の生徒が参加。大半が初めてという可搬ポンプ操作や救急処置実技の体験も、消防署職員等の指導のもと、熱心に取

訓練会場の広場にはお年寄りや、子供、中学・高校生と人でいっぱい。二組に分かれて「初期消火」と「スモークマシーン」(煙り体験)の訓練をし

そこで、中学生に今のうちから東海地震のメカニズム、家庭内や地域での地震対策等を幅広く学習してもらい、自主防災会の一員としての意識を高めてほしいものです。

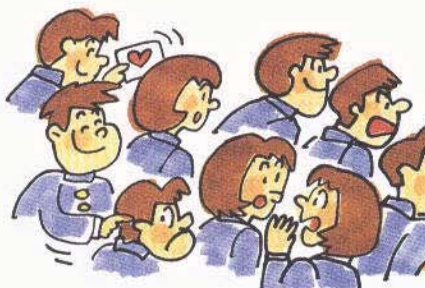
講座の模様を紹介しましょう。

八月九日、会場には浜松や浜北、湖西の三市、浜名郡など管内の中学校四十七校から三百人の男女生徒が集まりました。

まず体育館では「これだけは知っておこう」地震の知識と対策「自主防災組織と中高生の役割」の講演を、その後、生徒たちは駐車場に移動し消火訓練を行いました。激しく燃え上がる油の炎を消火するのは初めてとあって「こわこわ消火。指導に当たった市消防職員から、消火器を扱うコツなどを教えてもらいました。

消火訓練が終わった後、女生徒は体育館内で救急法、三角巾の指導を受け、男子生徒は駐車場で、可搬ポンプの操作と放水の指導を受けました。あいに台風の影響で雨となり、十分な時間を取れず残念でしたが、この受講をきっかけに、これから友人や家庭の中で話題を提供し、みんなが防災意識を高めていければ、と思います。

無限の可能性をもつ若い力は必ず、自主防災組織の活性化に役立ってくれることでしょう。



MEMO	
7月26日	北遠振興センター
8月1日	熱海
8月8日	熱志太部
8月9日	西中
8月16日	中速
8月17日	伊豆
8月17日	富士
11月18日	中部 (予定)
12月	東部 (予定)

日本付近のプレート？

日本列島の付近では、はるかアメリカ大陸沖合の太平洋の海底山脈で生まれ、年に数センチの速さで西に動いてきた太平洋プレートが、日本海溝で沈み込んでいます。また南方から北へ押し上げられているフィリピン海プレートが、駿河トラフや南海トラフでユーラシアプレートの下へもぐり込んでいます。これらのプレートがもぐり込む場所では、周期的に地震が発生しています。駿河トラフのところで、もうぐり込み量が大きくなった時、一気にユーラシアプレートがはね上がると考えられる現象が、予想される東海地震です。



ナマズ博士の地震講座

ブロック塀をチェック

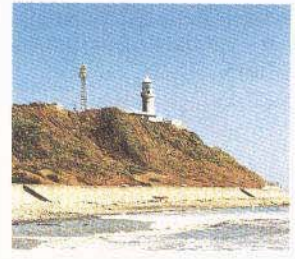
昭和五十三年の宮城県沖地震（震度5）ではブロック塀や石塀などの倒壊で、児童やお年寄り十八人（全死者数は二十八人）が亡くなりました。たいへん痛ましい光景として今でも思い出されます。
●東海地震は震度6〜7
では、どうすれば？
まず目で見て確認。
①傾いているもの②ひび割れが入っているもの
これらはいへん危険です。撤去や改修をしましょう。また、見ただけではよく分からない場

合次のことを点検しましょう。
①基礎は十分に地面に入っているか
②塀は高すぎないか
③塀の内側には支えの壁があるか
④塀に鉄筋が入っているか
点検方法は最寄りの市町村建築担当課や県土木事務所建築住宅課で配布している冊子「ブロック塀の点検と改善」を参考にしてください。
鉄筋探査器も県土木事務所に用意されています。地域防災の日（十二月二日）などに、ぜひチャレンジしてください。
診断結果は不合格だったブロック塀を補強したり、生

●地球を考える●

御前崎は地震のたびに隆起する

東海地震が発生する根拠の一つとして、御前崎付近の地面が毎年〇・五センチずつ沈降していることは前号で紹介しましたが、東海地震が発生するとその弾みで御前崎付近の地面は逆に隆起します。一八五四年の安政東海地震のときには、御前崎付近の地面が約一・五センチ隆起しました。
最近の研究によって、御前崎灯台が建っている台地は、過去の東海地震のたびに隆起して、



現在のような標高約四十センチの台地になったことがわかりました。

●自然を観る●



私もチャレンジ。鉄筋さがし。静岡市の大村さん



生垣に改善された通学路に面する清水市・望月さん宅

け垣などに造り替えましょう。補強はやはり冊子を参考に。生垣づくりやブロック塀の撤去などに下記の記事二十八市町村が助成を行っています。ぜひ、ご利用ください。
問合せ先／県地震対策課
☎〇五四―三二―二〇二九

- 下田市・伊東市・熱海市・松崎町・三島市・御殿場市・裾野市・長泉町・大仁町・富士市・富士宮市・蒲原町・清水市・富士川町・静岡市・焼津市・藤枝市・島田市・榛原町・菊川町・掛川市・袋井市・磐田市・浜松市・浜北市・可美村・舞阪町・新居町

●家を点検する●

表2. 家庭内日頃の対策



表1. 東海地震に対する関心度



東海地震以来十四年間、静穏状態が継続していることから、このような結果が表れていると考えられますが、「時間の経過と共に、地震の発生に向かっている」というのが、多くの専門家の一致した意見です。
地震活動が静穏状態が続いていることは、将来の安全を示すものではなく、地震のエネルギーを蓄え続けていることを意味しています。
目前にせまりつつある東海地震から、尊い生命と財産を守るため、いま一度、地域や家庭における日頃の備えを確認しておきましょう。

東海地震についての県民意識調査の結果がまとまりました。これは県内の20〜69歳の男女二〇〇〇人を対象に実施したものです。結果は表のとおりです。比較のため昭和五十九年、六十三年の結果も示してあります。表1の「東海地震に対する関心度」では、前回とほぼ変わらないものの、昭和五十九年との比較では愛慮される結果となっています。
表2「家庭内日頃の対策」については、避難場所の決定、家具の固定、食料飲料水の備蓄等で、昭和五十九年の調査より実施率が高まっているものの、その他の家庭内対策では、今後の対策強化が望まれます。

意識調査の結果

静かなときが危いときのなに…



応急処置——その② 思いもよらぬ事故でケガ をしたら

災害時には思いもよらぬ事故
が起きるものです。特に慌てた
場合には、住み慣れた家でもド
アや柱にぶつかったり、敷物や
敷居につまずいて転んだりする
ことがあります。

転んだ拍子にガラスをこわし
て大けがになるかもしれませ
ん。また災害後には、ガラス、
トタン、材木、コンクリートな
ど危険なものをかたづけする時
に、けがをしやすいのです。

●おもな開放性のきずと特徴
「きりきず」出血が多く縫合処
置を要することも多い。
「さしきず」きず口は小さいが
深くまで達していることがあ
り、感染を起こしやすい。胸や
腹の場合は内臓損傷のおそれも
ある。

●「すりきず」皮膚をこすったき
ずで出血や痛みがあり、範囲が
広く、感染も起こしやすい。

●手当
出血の多い場合には、直ちに
止血して医療機関に運ぶ。出血
が少ない場合には、感染の危険
が多いので、きず口に保護ガー
ズを貼る。

ゼ（滅菌ガーゼが理想的だが洗
濯されたきれいなハンカチでも
よい）を当て、包帯をして医師
の診察を受ける。泥まみれの場
合には、水道水などできずの汚
れをきれいに洗い落としてから
包帯をする。

●一般的な注意
1 きずの手当てをするとき
は、必ず手を洗う。
2 きず口にできた血の塊り
は、むやみに取り除かない
3 きず口に直接、綿やチリ紙
をのせない
4 どんなきずでも安静にし、
全身の状態をみて、保温や体位
に注意
5 三角布などで確実な包帯を
災害時には例え家の中であつ
ても手袋、ヘルメット、底の厚
い丈夫な靴を用意しましょう
参考／赤十字救急法教本



子ども防災教室

目を輝かせていた、あの 夏の一日

7月下旬、小学生を対象に
子ども防災教室を開きました。
今年からの催しとあって、当
初は不安を感じていました。
しかしふたを開けてみると予
想以上に好評で、はっとしまし
た。

一つびっくりしたことがあ
ります。お昼に、子どもたち
に非常食の缶詰を試食しても
なかったのですが、ほとんどの
子が缶詰を開けることができ
なかったのです。災害対策よ
り前に私たち大人が考えなけ
ればいけないことがあるよう
です。

ともあれ、地震にチャレン

ジ、というテーマ
のもと「工作をし
よう」「君は生き
残れるか」「ケガ
人を助けよう」「上
手に伝わるかな」
などの科目に目を
輝かせながら、熱
心に取り組む子ど
もたちの姿が印象
的でした。

楽しい一日を過
ごして、夏休みの
思い出が一つでき
たのではないでし
ょうか。



地震防災センター見学のお申し込み・お問い合わせ
は☎054-251-7100へ

SURVIVAL サバイバル教室

いざという時に、いちばん 困るのがトイレ

学校や施設に避難しても、電
気、ガス、水道が止まってしま
った場合、いちばん困るのは水
洗トイレの使用が不可能になる
ことです。

各市町村には簡易組み立て式
の仮設トイレが準備してありま
すが、各避難地に行き渡るほど
の数はとてもありません。そこ
で最も簡単な素掘り式の仮設ト
イレが必要となるでしょう。

そのためにはあらかじめ避難
所ごとに、し尿処理のための位
置を選定しておくことと、それ
に必要な物資等を準備しておく
ことが必要となります。



- 1. 素掘り穴を掘る
幅七〇センチ×深さ五〇センチ×
長さ六尺・容量二・一立方
尺
- 2. テントを張る（テントの布
を用意していない場合は、ビニ
ールシートなどを用いるとよ
い）
・奥行1.8m・間口7m・高
さ1.8m・内部を1m間隔で
仕切り 各々臭気抜き窓を
設ける・出入口はファスナ
ー開閉として各区画につけ
る・屋根は切妻式屋根
- 3. 消毒法
・消石灰、3%クレゾール
水の散布
- 4. 埋立処分について
・消石灰を重量比で0.5%以
上混入

「神奈川県西部地震」も予想されています

過去、神奈川県西部地域で
発生したマグニチュード（M）
7クラスの地震には、規則的な
周期性があることが知られてい
ます。一説によるとそれは七十
三年前後で、次の発生が一九九
〇年代になると予想されていま
す。すでに神奈川県では、「神

神奈川県西部地域に発生した地震

地震名	寛永	元禄	天明	嘉永	関東
発生年	1633	1703	1782	1853	1923
規模M	7.0	7.9~8.2	7.0	6.7	7.9
津波	発生 （津波）	発生 （津波）	発生 （津波）	なし	発生 （津波）
	発生 （津波）	発生 （津波）	発生 （津波）	なし	発生 （津波）

（1990理科年表）

奈川西部地震問題懇談会」を
設置、その対応策について検討
を始めています。

の揺れが襲うと予想されます。
飯に、相模湾内を震源として地
震が発生した場合、伊豆半島の
東海岸では、津波からの避難も
必要になってきます。

したがって、静岡県東部地域
では従来進めてきた山崩れ・津
波対策と、家庭内対策を重点に
防災を進めることが必要にな
ります。

このクラスの規模では、地震
予知は不可能です。また、ひと
たび起きれば地震には環境があ
りません。「お隣りのこと」な
どと安心して不覚をとることの
ないよう、万全の対策をとって
おきましょう。

大きさはM7、最大の震度が
6程度と推定されていますが、
静岡県東部地域にも、かなり

開いて下さい
タウンページ

東海地震対策を、NTT職業
別電話帳（タウンページ・中部
版）に掲載しました。ぜひご利
用ください。（西部版は1月・
東部版は4月に掲載予定）



最近めったに上陸することの
なかった台風も、今年はこの十
年分がまとめてきたのではない
かと思われるほど襲来し、各地
に大きな被害が生じました。

この「自主防災」は、東海地
震に対する啓蒙だけではなく、
すべての地震災害・暴風雨・津
波・土砂災害に対する防災啓蒙
活動を行っていきたく考えて
います。

最近、人間が自然を破壊し
たことに起因する災害も多く見
受けられるようになりました。
予想される災害を、歴史からし
っかりと学びとり、被害の軽減
に努める責務を感じています。
（編集長）

自主防災

第 12 号

平成3年(1991)3月1日

編集・発行/静岡県自主防災組織活動推進委員会
発行所/〒420 静岡市追手町9-6

静岡県地震対策課内推進委員会事務局
☎054-221-2019

みんなで話そう地震対策

何やら地球がネガわがしい

●1990年6月21日発生。
マグニチュード7.6
ほとんど耐震性を持っていない日干しレンガや石造りの家屋が多く、震源地近くのカスビ海岸一帯では壊滅的な被害を受けた。その死者は約1万人とも伝えられている。地震直後、日本の国際救助隊が初任事で救援に向かった。



イラン地震

●1990年7月16日発生。
マグニチュード7.7
傾斜地や造成地で地盤が崩壊したり、高層建築物が倒壊したり、海岸付近では地盤の液状化による被害。また山間地域では山崩れの被害が多数発生。死者は約2,000人にのぼり、救援や復旧に大きな問題を残した。



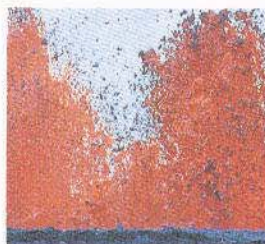
フィリピン地震

●1989年10月17日発生。
マグニチュード7.1
サンフランシスコ近郊の高速道路の崩壊や、軟弱地盤に建ったビルなどが被害を受け、近代都市における地産対策の重要性を考えさせられた。



ロマリプリータ地震

ハワイ島キラウエア火山噴火



●1990年3月頃から活動が活発化し、多量の溶岩を噴出
4月には溶岩流が山麓を走る高速道路を越え、カラハナ居住地区にまで達し、住民に避難命令が発令された。5月上旬まではカラハナ地区の民家約70軒が溶岩流の熱によってほとんど焼失した。



先日、講演会で地震予知連絡会副会長の力武常次教授が、「こう述べています。『地震が世界でたてつづけに起こりましたが、その場所があらわらなっており、また起こる時期もあまり一定しておりませんので、特に日本での危険度が高まった』ということば言えないのであります。反面、ここしばらく大地震はなかつたというものの、日本が大地震に襲われる可能性はむしろ高まっていると考えべきです。』」

最近、世界で相次いでいる地震の発生に対し、東海地震等の危険度についての見直しを議論したものです。

私たちの記憶の中では、この一、二年に世界で目立った地震被害が頻発しているように感じます。マグニチュード7以上の地震は、昨年一年間に世界中で十三回発生しています。しかし過去二十年間を見ても、一年にはほぼ十二回の地震が発生しており、特に昨年だけ地震が多発していたわけではありません。

一方、私たちの住む静岡県に目を向けると、最近では非常に地震活動の低調な状態が続いています。昨年一年間に全国で体に感じた地震は七百四十八回発生したのに対し、静岡県付近では九回しか発生していません。それは、決して地震の発生しにくい地域になっているためではなく、東海地震のような巨大な地震が百数十年に一度発生する前には、通常の地震活動が低調になるためだ、といわれています。

先の力武教授は「今後十年以内に東海地震が発生する確率は約三五％と推定される」とも述べています。この確率が高いか低いかは個人の感覚によるものが大きいのですが、例えば本日本午の降水確率は三五％と、言うのと同じで、巨大地震の発生確率が三五％ということもかなり危険な状態であるとの認識をもつことが、正しい判断といえるでしょう。

これからも常日ごろの備え、心構えを忘れずに、安全な社会を築いていきたいものです。

…災害は忘れたころにやってくる！

地域防災NEWS

あのまち、このまち、みんながんばってます。

12月の地域防災訓練

思いどおりにいかない経験が、本番で役に立つ

毎年十二月の第一日曜日は「地域防災の日」です。昨年の十二月二日も、県下一斉に真剣な訓練が行われました。「自分の命と生活は自分で守るしかない」という、災害直後を想定した訓練に、密着取材してみました。

この町内は全世帯を隣組の十五グループに分け、それぞれの隣組は近くの空地を訓練会場にしています。

この日は風が強かったので消火器と水の入ったバケツが各会場に用意されていました。火事を出さないための防火の気配りです。

①自分の家の食事は会場です。



②電気もガスも水道も使わずにつくる ③水はポリタンクのまま持って集まり、米をとぐのもおかずの煮炊きもその場です ④自分の備蓄量で足りるか足りないかも確かめる。こうした各家庭の心の準備も、訓練の狙いの一つでした。

みんなが持ち寄った、飲料水の入ったポリタンク、米にめん類、野菜や漬物、鍋に釜、飯ごう、七輪に炭、まき用カマドに薪カセットコンロにボンベ、固型燃料、みそに醤油、茶わんに湯のみとハン、外で座る敷物など、思い思いの道具や燃料が空地いっぱい。

お年寄りから子供まで力を合わせて支度している中、大勢の中学生が、きびきびと参加していた姿が印象的でした。これは、町内の中学生を隣組別リストアップし、そのデータによって組長さんが訓練に参加するよう呼びかけをした成果でした。中学生の五〇%以上が参加した会場は活気に満ちていました。小学生も一生懸命手伝っていました。高校生も一歩参加は少なかつたようでした。

一時間ほどで全世帯の食事ができあがり、青空の下で近隣の触れ合いを深めながらの昼食は楽しそうでした。しかしこの町も、最初はご飯を炊く容器が鍋や釜だったので水加減が分からず失敗したり、薪や木炭のため火の加減で失敗するなど、いくつ問題があったようでした。



ユニークだったのは、焼けた砂の中からゴロゴロ出てきたヤキイモ。季節の味覚は子供たち

川根中学校 二年B組 堀田理恵子

九月一日は、防災の日です。私達も学校で防災訓練をやりました。二年生の女子は、大ぶら油で火災が起った時、どんな対応をすればよいのかの訓練をしました。

おなべから火が出た時は、あわてて水をかけると火が大きくなってしまふそうです。消防団の人に教えてもらい、一人一人バスタオルをぬらして火にかぶせました。教えてもらったとおりにやったり、おちついて火を消すことができました。ただ、もしこれが本当の火事だったら、あわててしまって自分の身を守ることができなかつたかもしれせん。でもみんなが真剣に見て、話も聞いていたので、



これなら大丈夫だなとほっとしました。大きい火の場合はこのやり方と、消火器を使うやり方がある。小さい火の場合は、専用の小さいスプレーを使って初期消火ができるというのを知りました。こういうことを知っておけば、いざというとき、大人の人へ手助けができるし、自分の外の人の役に立ちます。消防団の人達から、ふだん学べないことを学んで、よかつたと思いました。

最後に、校長先生が、「防災ズキン」は自分を守るためにかぶると、いわれました。防災ズキンをいやがってかぶらないのと、かぶってくるのでは、自分を守るか守れないかは分かります。だから訓練をするという事は、自分のために、とつても大切なことなんだと初めて分かりました。

わたしたちの訓練体験記

の人を集めていました。一見、簡単に思えることでも、実際にやってみると、いろいろな問題がでてくるものです。

れらを家族ぐるみで体験しておくことこそ、本番に力を発揮してくれるはずだ。

自主防災活動推進大会開く

十一月二十三日、地震防災センターを会場にして、平成二年度「自主防災活動推進大会」が開催されました。

当日は、優良自主防災組織に対する知事賞と併せ、地震防災ポスターコンクール入賞者の局長表彰も行われました。

- 優良自主防表彰
- 団体の部
 - 東伊豆町・田原自主防災会
 - 沼津市・第四地区西地合防災会
 - 芝川町・磯場自主防災会
 - 静岡市・小籠一丁目新町日防災会
 - 掛川市・本郷西地区自主防災会
 - 袋井市・下山梨下自主防災隊
 - 三ヶ日町・貝木自主防災会
 - 個人の部
 - 志村 幸平/元観野市自主防災連合会長
 - 岩崎 秀美/沼津市防災指導員会長
 - 鈴木 昭二/豊田町飯坂下自主防災会会長
 - 田内 徳治/湖西市防災委員連合会長

裾野東中学校 二年 佐藤 龍矢

九月二日の地区防災訓練に参加して、地震について思ったことが四つあります。一つは自分をふくめてヘルメットをかぶっていない人がたくさんいたことです。もしも地震があったとして上から物が落ちてきたらどうなるでしょうか。その人は頭にけがをしてしまいました。

ヘルメットは、自分の命を守る為にあるのだから、しっかりかぶっていない人ばならないと思います。

二つ目は、地震がおきたら、自分の仕事を家族で決めておいてあると良いと思いました。僕達の家では、お母さんは、ガスをすぐ止めにいきます。いちばん玄関に近いおじいちゃんやが戸を開けにいきます。このようにみんなで分担してやると思えるのも楽になると思えます。

三つ目は、地震が襲ってきて何かの拍子で火がついてしまった場合は、すばやく落ちて着いて消火器をもって消すことよと思えます。僕は、置き場所としては台所が一番良いと思えます。それは、火が出やすい所だし、油であげ物をしている時油に火がついた時は、すぐ消火できるからです。

四つ目は、地震がおきて、ガスの元栓をしめて外へ出た時、ガス管が破れてガスがもれている場合はどうしたらよいのでしょうか。また、それに火がついた場合は大変です。爆発をしてしまつて僕達の鈴原地区は全滅してしまいました。今回は、このような時の訓練はしませんでした。このようなことは、大切なことなので地区で話し合つていけばよいと思います。

以上のようなことを直していき、いつくるかわからない地震についての対策を今からたてておきたいと思えます。





ナマズ博士の地震講座

地震のおこる場所は？

地震は地球上のどこにおいてもおこるものではありません。図のように限られた場所で発生します。

地球の表面は十数枚のプレートで覆われており、そのプレート同士が接する境界付近で地震が多発しています。プレートの境界は①互いにぶつかりあう部分②互いにすれ違う部分③新しくプレートがつくられ分離していく部分、と大きく三つに分類できます。

アリューシャン列島からカムチャツカ半島、日本列島を経て



琉球列島に続く地震帯は①タイプ、北米大陸西岸の地震は②タイプ、インド洋、大西洋の中央部を走る地震帯は③タイプといえます。

●地球を考える●

伊豆半島が本州に衝突した！

伊豆半島を形作っている地層に含まれる化石の研究により、伊豆半島は、一五〇〇万年前には現在より南方の海底にあった

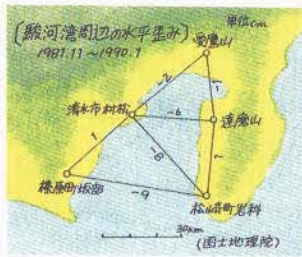


と考えられています。その後、フィリピン海プレートとの北上運動により、現在伊豆半島を構成する地盤もプレートと共に北上し、日本列島に衝突、付加して半島になったと考えられています。また、この運動によって丹沢山地は盛り上がり、現在でも隆起が進行しています。

●自然を観る●

せまくなる駿河湾…

図はレーザ測距儀による、一九八一年十一月の値と、一九九〇年一月の値を比較したものです。(○)がついた値は縮みを、



ない値は伸びを示します。藤原町坂部と松崎町岩科の間は、約八年間に九センチの縮みなので、一年間に約一センチの割合で伊豆半島が移動していることとなります。

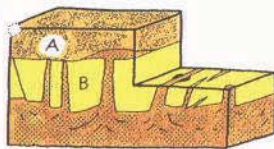
●図表を読む●

坂尻遺跡と液状化現象

大地震の際、砂地においては液状化による噴砂現象がよく発生します。

図は、袋井市坂尻遺跡の発掘調査中に発見された噴砂跡の立体模式図です。

地層に含まれる土器等から、噴砂跡が貫いているB層は西暦六五〇～七〇〇年、噴砂跡を覆っているA層は七〇〇年～七五〇年の地層とみられます。そこでこの噴砂を起こした地震は、六五〇～七〇〇年の間に起こったものと考えられます。歴史の記録によると、六八四



(駒田北高科学部)

●歴史に学ぶ●

昨年(一九九八年)十一月十七日未明、長崎県島原半島にある雲仙岳が、一九八八年ぶりに噴火しました。この噴火は、地下から上昇してきた火山ガスが、火口のまわりの岩石を吹き飛ばしたばかりの小規模な噴火でしたが、東麓にある島原市では住民の避難が検討されるなど多くの人々の注目を集めました。



九州の雲仙岳が一九八八年ぶりに噴火

温泉街からは、地形的に噴煙を望むことができなかったため、住民の間に動揺などは見られなかったようでした。噴火直後、百九十八年前と同じ経過をたどった場合を想定して、島原市では全人口の六割に当たる二万六千人を避難させようとする計画を進めていました。火山活動が小康状態を保っていたため、この避難計画も公にされる前に手無きを得たようでした。



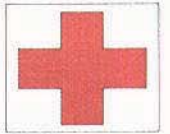
※赤字は今回噴火した火口

政四年(二月)に始まった前回の噴火では、三月に入って溶岩が流出しはじめ、五月には雲仙岳の東側に隣接する眉山が大崩壊したからです。このとき崩壊した土砂は島原城下に達するとともに、海に突入して津波を誘発し、有明海沿岸で死者一万五千人にも達する、日本の火山災害史上最大の惨事となりました。

地震対策課の職員が現地へ入ったのは噴火のあった十一月末。そのころまでには噴火騒ぎも一段落し、最初二カ所から上っていた噴煙も一カ所になり、それも火山灰をほとんど含まない噴気という状況でした。

幸いにして、噴火した場所が人家から遠く離れた森林の中で、地震と呼ばれる噴気口がいくつもあったこと、また噴火場所に最も近い居住地である雲仙

島原市では、東市は文字通り地震と火山の国に住んでいることを実感しました。今後、いつまた噴火活動が再発するかわからない状態であり、いざという時に備え、日頃の準備を怠らないようにしたいものです。



応急処置——その③ 応急手当をする前に、ケガ人・病人をよく観察する

救急法では正しい応急手当が大切ですが、手当の前に観察が必要で、観察は患者の状態のみでなく、どんな状況の中でケガをしたか、病気になったかを把握します。また二次災害の危険はないかどうか注意しましょう。

とくに重要なのは、直ちに処置を必要とするかを見分けることです。それは、

●大出血 外部からはそれほど出血が見えなくても衣服の中で大量に出血していることある。短時間に全血液量の三分の一(一五〇cc前後)が出血すると危険。

●呼吸停止 胸や胃のあたりが上下に動いているか、また自分の頬を患者に近づけて呼吸の音が聞こえるか、患者の吐く息

が頬に感じられるか、などで呼吸の有無をみる。

●脈の停止 脈の触れるところ、手首の親指側や股の付け根、首のどぼとけの横など、ひとさし指となか指の先のくくらみで軽く押さえてみる。

●意識障害 意識の有無を確認する。



かめるには「どうか小さいましたか」と軽く肩をたたいて反応があるかないかをみる。名前がわかれば「○○さん」と呼ぶのもいい。大声で呼んだり体を強くゆすぶったりしてはいけません。

以上の兆候がみられた場合には、直ちに止血、人工呼吸、心マッサージ、気道確保などの処置をしないといけない場合があります。その他に、チアノーゼといって皮膚や唇、爪の色が青黒くなっているいかちもみましよう。これも危険な兆候です。

このような兆候がない場合には、患者に話しかけながら、苦痛を聞き、全身をよく観察します。その後、必要な手当をしましよう。

参考/赤十字救急法教本

地震防災センターご・あ・ん・ない

「夏休み地震防災ポスター」

応募ありがとうございます

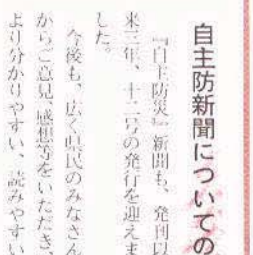
夏休みに小学生、中学生の皆さんから地震防災ポスターを募集しました。初めての催しにもかかわらず、小学生二百六十二名、中学生百五十四名、合計四百十六名もの多数の応募がありました。私たちにとても大きな喜びでした。

その中から、小学生、中学生の部それぞれ最優秀賞二点、優秀賞五点を、佳作十点を、三階の会議室に、十一月十五日から十二月五日まで展示しました。いずれの作品も力作ぞろい、私たちが思いつかないユニークな作品が多く、優秀作品



松本久美子さん▲

- 小学生の部
 - ＜最優秀賞＞ 松本久美子/岐阜市立豊田小六年
 - ＜優秀賞＞ 大石まこと/浜松市立西小二年、大田綾子/浜松市立浜小三年、太田穂子/岐阜市立白川小五年、森田 慶子/岐阜市立東小六年、池田 幸紀/岐阜市立築山小六年、松山 智子/岐阜市立築山小六年
- 中学生の部
 - ＜最優秀賞＞ 高塚令子/組合立御前崎中三年
 - ＜優秀賞＞ 青島 小鈴/豊田市立向陽中三年、青島 小鈴/豊田市立向陽中三年、高橋 花子/熱海市立多敷中三年、高橋 花子/熱海市立多敷中三年、高橋 花子/熱海市立多敷中三年、高橋 花子/熱海市立多敷中三年



▼高塚令子さん

「自主防災」新聞も、発行以来三年、十二号の発行を迎えました。今後、広く市民のみなさんからご意見、感想等をいただき、より分かりやすい、読みやすい紙面づくりにとめていきたいと思えます。

「自主防災」新聞も、発行以来三年、十二号の発行を迎えました。今後、広く市民のみなさんからご意見、感想等をいただき、より分かりやすい、読みやすい紙面づくりにとめていきたいと思えます。

日露交渉のそなかに安政東海地震が

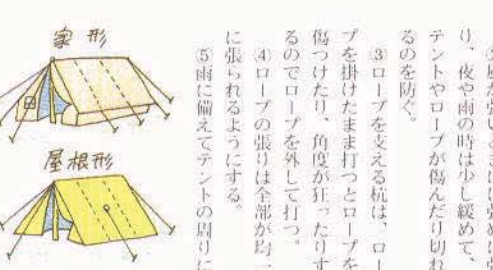
安政元年十一月、難航する日露交渉のさ中、安政東海地震は起きました。下田で交渉の任にあたった幕府勘定奉行川路聖謨は、この時の津波の恐怖を日記に残しています。

（静岡県地震史第3報より）



自然の中に放り出されても、アメツシのいでいける方法

大地震！家が破壊され、いっときでも野営をして生活をしなければならぬ時のことを考えたことがありますか。



①風が強いときには強めに張り、夜や雨の時は少し緩めて、テントやロープが傷んだり切れるのを防ぐ。

②ロープを支える杭は、ロープを掛けたまま打つとロープを傷つけたり、角度が狂ったりするのでロープを外して打つ。

③ロープの張りは全部が均一に張られるようにする。

④雨に備えてテントの周りに溝を掘る。溝は土地の傾斜を利用して雨水が流れるように作らなければテントに雨水が入ってくることもある。

私たちは、文明が発達するのに比例して、自然から遠ざかってしまっています。先祖が狩りや魚とりで毎日を送っていた生活を考えながら、災害発生時の対策を楽しく学んでみてください。

編集後記

年度末が近づくと、新年度へ向けての諸計画に自主防衛員の皆さんは忙しい日々をお過ごしのことと思えます。ご苦労様です。

この「自主防災」も、創刊号から三年、数えて十二号を発行することになりました。第五号からカラー化され、また第十号からは紙面を一新し、皆様から親しまれる新聞にしようと努力をしておりますが、その反響がいまひとつ少ないのを寂しく思っております。

皆様のご意見・提案、そして訓練の体験記などの投稿をいただければうれしく思います。

（編集長）

『自主防災』新聞について感想をお聞かせください

『自主防災』新聞も、発行以来3年、12号の発行を迎えました。

今後も、県民のみなさんからご意見、感想をいただきより分かりやすい、読みやすい紙面づくりにつとめていきたいと思ひます。



自主防災推進委員

徳田 権作	清水市船越東町自主防災会会長	(委員長)
中嶋 清治	新居町自主防災会連合会会長	(副委員長)
高野 邦雄	富士市石坂一丁目自主防災会会長	(編集長)
大石 勇輝	焼津市第12自主防災会会長	(副編集長)
藤間 忠作	熱海市紅葉ヶ丘長町自主防災会会長	
杉山 好	裾野市地震防災指導委員会会長	
向井 正治	天竜市西古町自主防災会会長	
永野 純子	静岡赤十字病院医療社会事業部保健婦	
木村 文一	下田市大和区自主防災会会長	
北川 正枝	島田市宮川町自主防災会婦人防災委員	
大高 端芳	伊東市宇佐美地区自主防災連合会会長	



▲防災訓練



編集・発行／静岡県自主防災組織活動推進委員会

発行所／〒420 静岡市追手町9-6

静岡県地震対策課内推進委員会事務局

☎054-221-2019